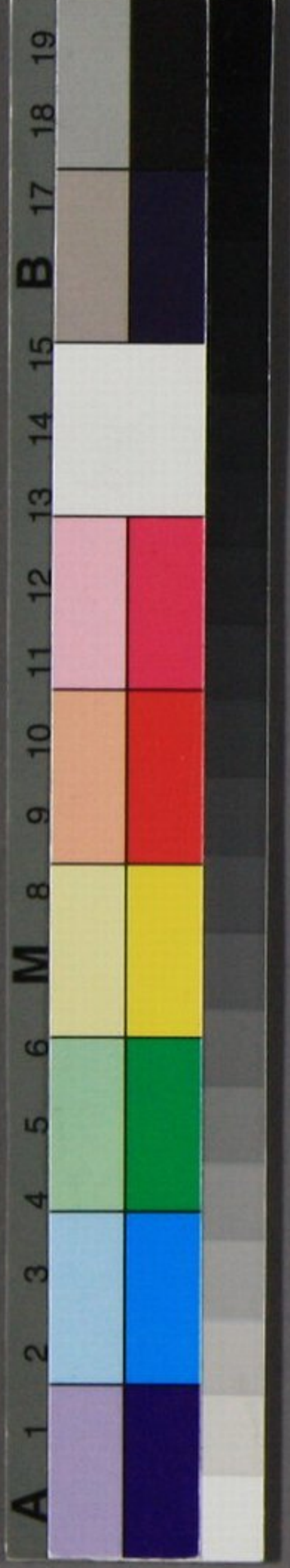


徵古圖錄

911  
370





いかへとまのあふりかへり今とのちふはしあ  
 ちみよふりて誰うりて誰ふはしあへん  
 そのあふりてはつてふあふりてはしあへん  
 ちと備はふまはあふりてはしあへん  
 うちまはともあふりてはしあへん  
 あふりてはしあへん  
 そのあふりてはしあへん  
 まさしく備はしあへん七巻りてはしあへん  
 のあふりてはしあへん  
 たふりてはしあへん  
 らはんとあふりてはしあへん



皇太神宮儀式帳云

宝殿物十九種

金銅搯二基

右延曆四年近宮時依神祇官符一載言上解文而供奉  
御鏡二面各徑麻笥二合加世比二枚鑄二枚金銅搯一基  
麻笥一合加世比二枚鑄一枚弓二十四枚矢二千二百雙  
玉纏橫刀一柄須加流橫刀一柄雜作橫刀二十柄比女鞞  
二十四枚蒲鞞二十四枚鞞二十四枚拵二十四枚戈二十  
四竿

延喜式云

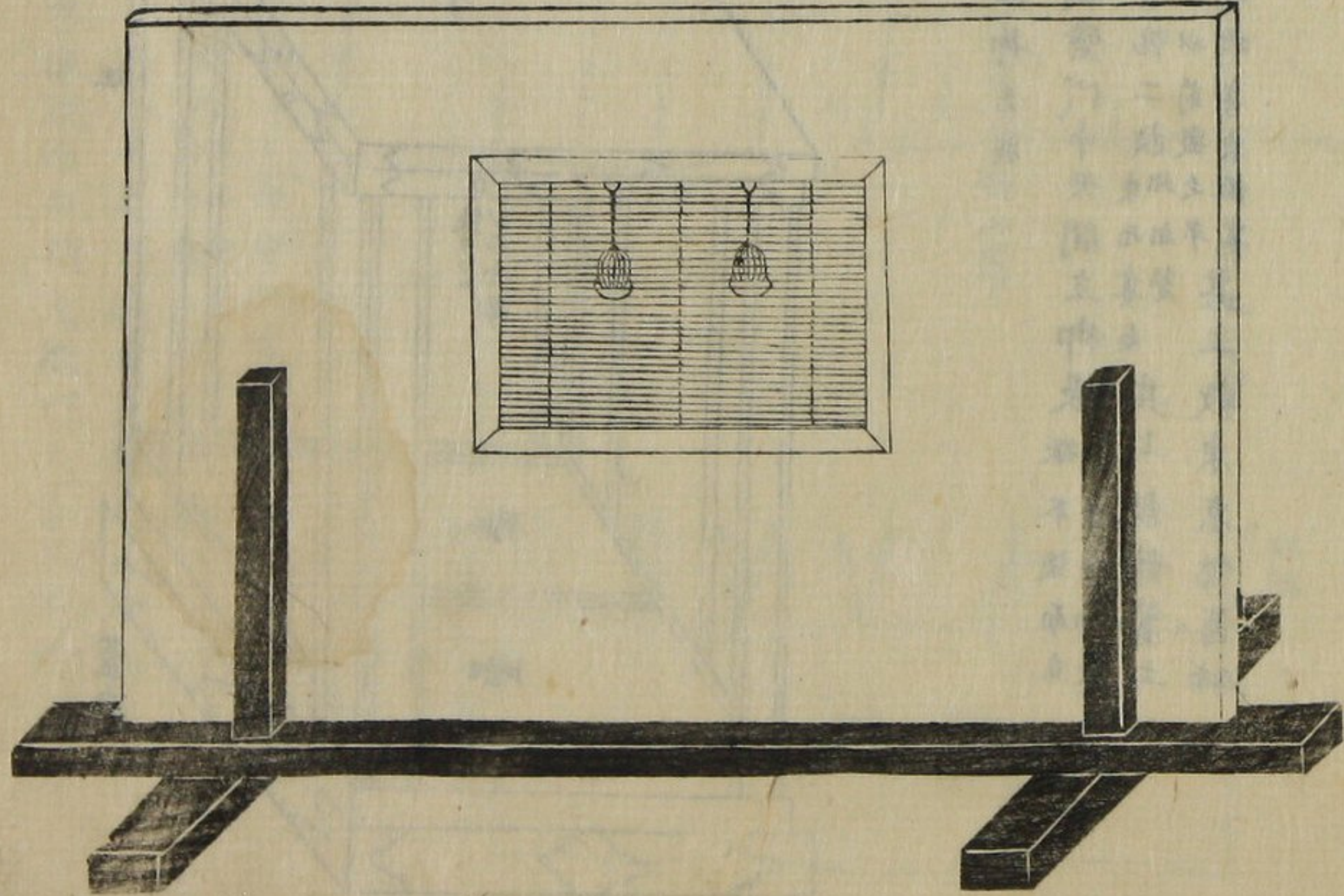
神宝廿一種

金銅搯二基高谷一尺一寸六分 金銅麻笥二合口徑三寸六分 尻徑二寸八分  
金銅加世比二枚長谷九寸六分 長五寸八分

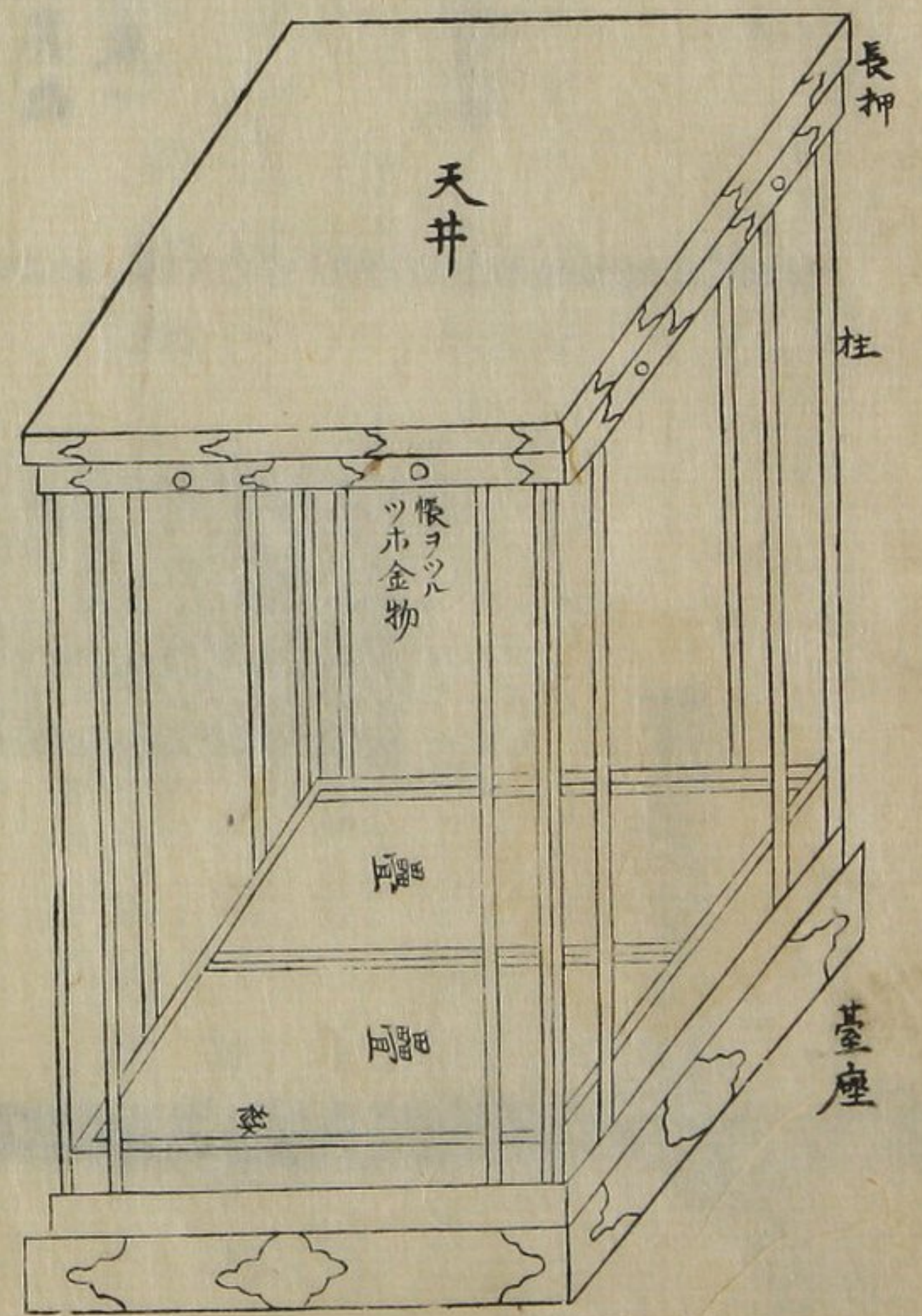
通障子

江家次第云元日節會  
御帳西北角拉下北障  
子南去五許尺西行二  
間立通障子二枚其西  
一間立大宋御屏風一  
帖南向云々

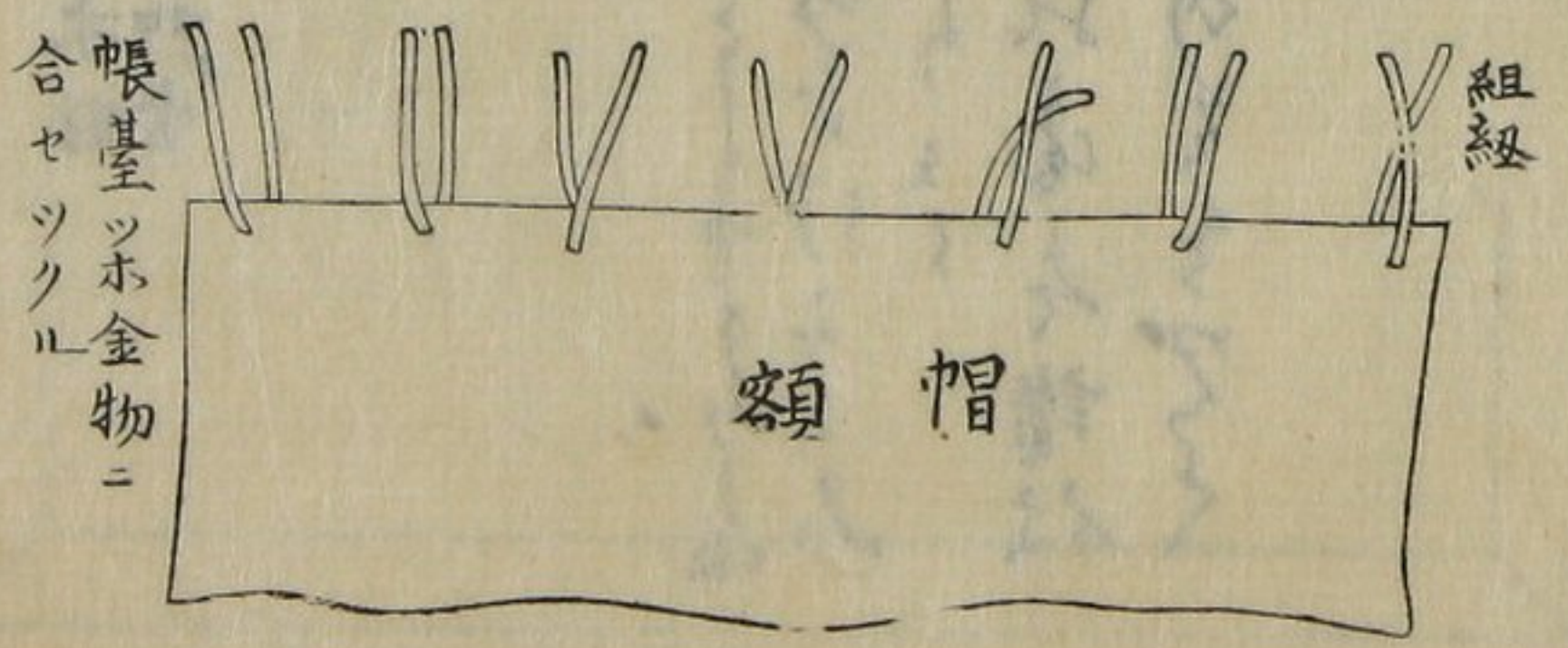
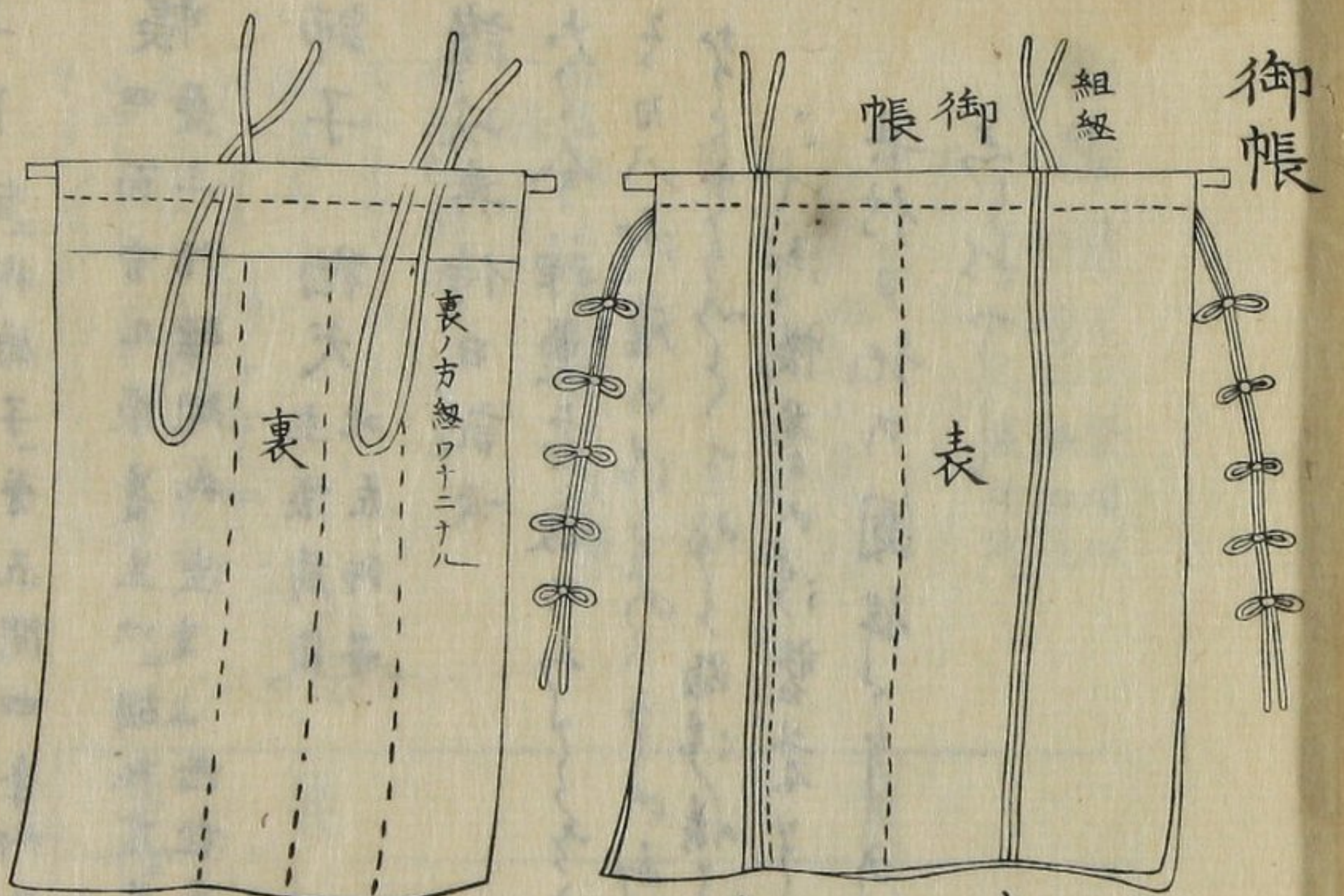
柵花菓葉云  
通障子或トホリニヤク



御帳臺圖



長秋記云 源師時卿  
 天永四年正月一日 天皇御元服  
 紫宸殿母屋九間懸新調壁代中央間立御帳  
 撤不帳而立  
 大掌會御帳  
 也 長臺上敷滿綾綢端廣帖二枚 東西相雙  
 其 上敷龍鬚土  
 敷二枚 色綾綠濃打裏以前敷之半  
 其 上敷東京錦茵面  
 以茵中央當  
 二敷二枚中



三長記云 三條中納言建久九年正月云 節會御裝束寢殿西三ヶ間庇懸  
 御簾垂之東面母屋庇打簾懸御簾垂之南北行懸也 其内立御帳垂惟云々  
 岡屋關白記云 基嗣公 建久三年七月八日 是日遷幸之後初出御南殿云々  
 天皇著御帳中頭弁裝 昂左近將曹卒近衛木開左腋門大舍人開門圍司  
 進版葵之了云々

禁秘御拔云

一 清凉殿

五間 北第一間母屋為御路次御帳間大床子弟四間與  
有御厨子一弟五間四季御屏風母屋有日記御厨子

帳 四面有儿帳夏生以胡粉畫花鳥鶴秋冬栲木形  
疊三帖纏網御座東上西柱角鏡東面漬床如常

師子 狛犬 在帳前南  
北左師子

讚岐典侍日記云

たゞ今神靈室叙のわささるゝをふいゝくわしゝをさるゝぬ  
そ日乃御座の湯もあゝるゝあゝるゝ御帳のひまきさゝるゝみ  
かゝるゝりゝゝゝゝぬ清帳はほつゝゝゝなりゝゝ  
こゝ御帳甚の湯整ふもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
典侍日記の圖解よりみまにたりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

軟障圖

大小豎横任  
意拾好如是

へり四方紐表裏折返

下ル

中白綾ナリ

高松之画或小鷹狩

彩色高松軟障狩軟

障ト云

和名鉄云木朝式云軟障  
一條云々

源氏物語そりの巻云

せんまゆり云々

細流云

ほいそそ障子あややう

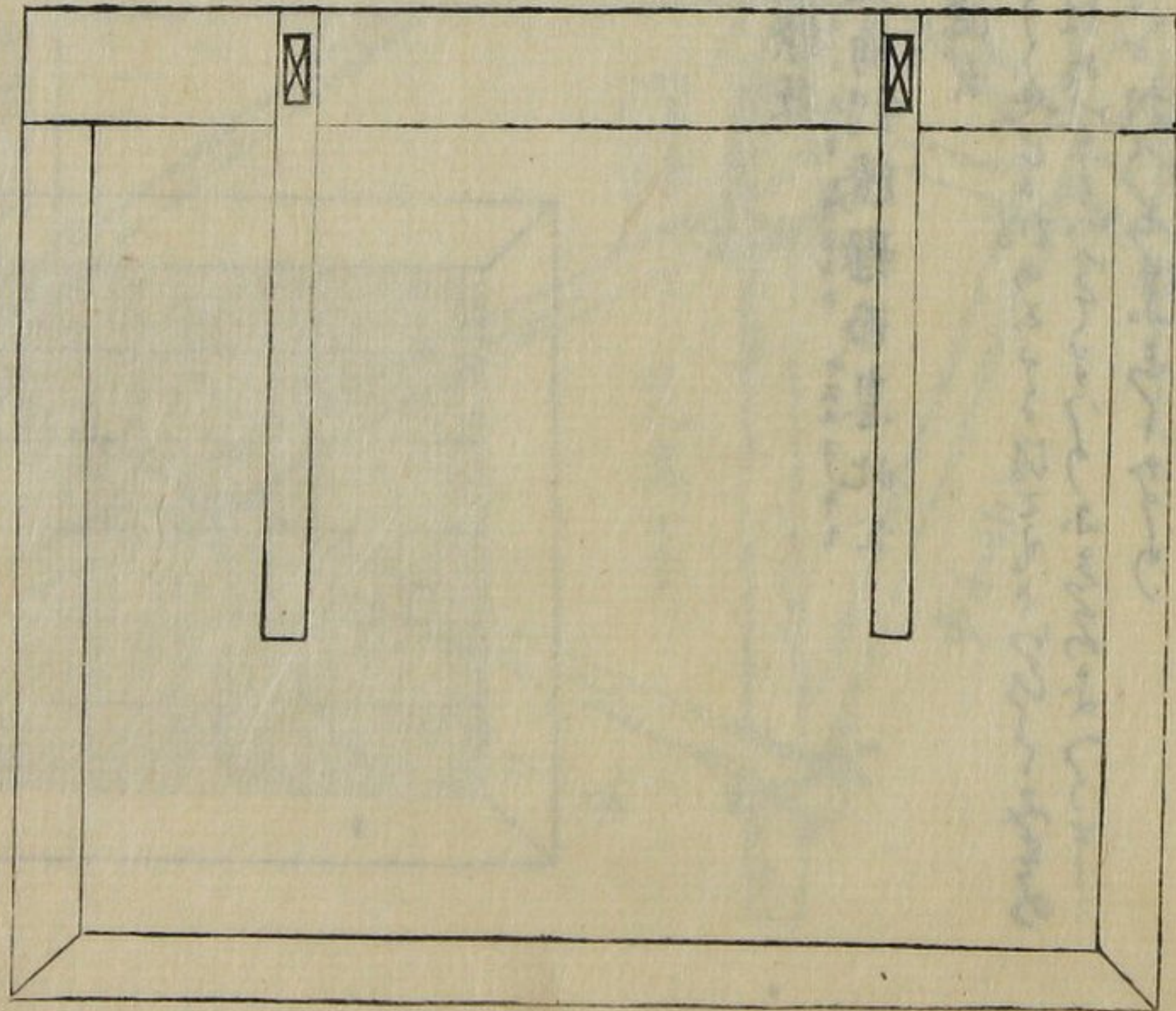
あやのあや假名ふいせん

あやうとあやふあやうとあや

大饗雜事抄云

軟障事

面ハ生絹ニ唐繪ヲカク縦横ハ三尺七寸定横ハ六幅ナリ上下左右ニ綾ヲ紫ニ  
染テ縁ニ付リ其廣ハ六寸八分定白練ノ絹ヲ裏ニ付ク縁ノ裏ハ紫ノ練絹也紫  
ノ綾ナリト一寸計ニタ、ニテ乳ニ付ク其數十也綱シトホスヘキ料ナリ紫ノ練  
ノ平絹ノ七口廿一寸餘ナリニ布ヲ縫ク、ニ夕ル綱ニテ張之綱ノ長ハ一丈二尺定  
上官ノ座ニ依テ此軟障ヲ或五帖或四帖副御簾引之也今注付タル一帖也



箕薦圖

大饗雜事抄云

一箕薦之事

裏ハ白生給其下ニ

敷油單俵也鯖口折

トハ繪様ニ大獻之

裏ハ閉付俵也

一箕薦

如薦編竹裏ニ着白

生給

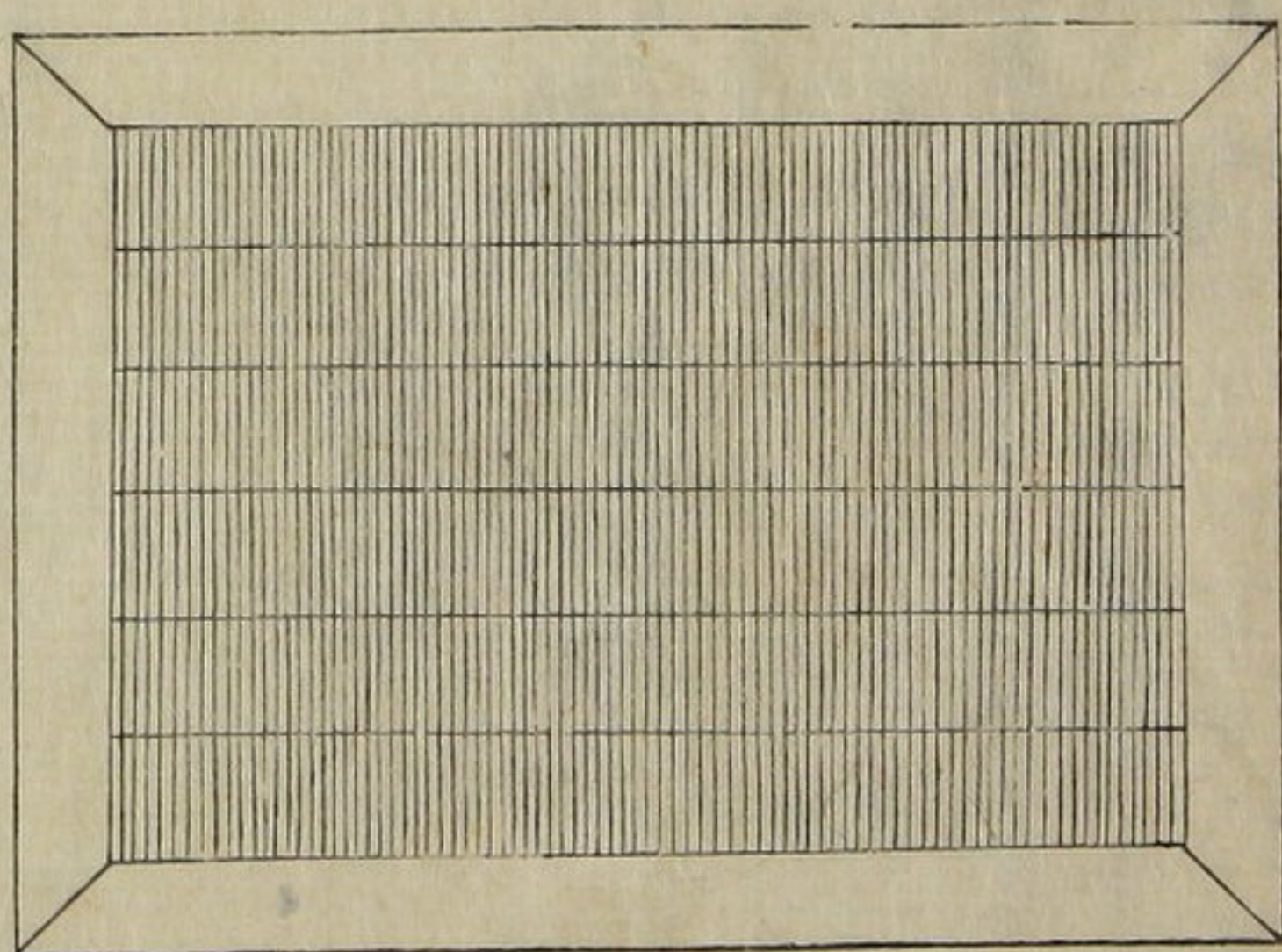
万葉集卷十六云

詠行騰蔓菁食薦屋探歌

食薦敷蔓菁煮將未探爾行騰懸而息此公

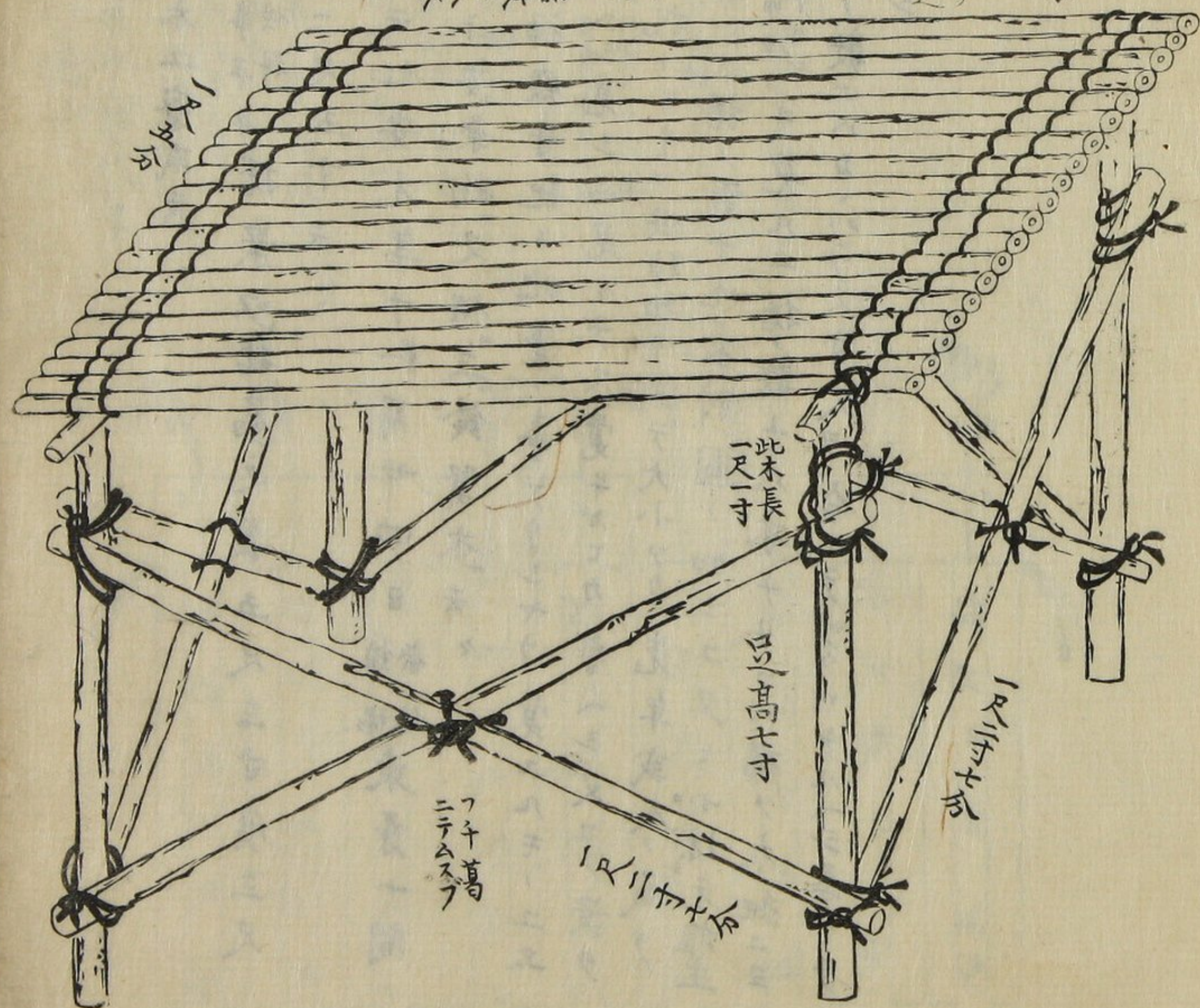
雅亮裝束抄大饗食支條云

つゝとたて饗とすも此のまゝはこゝろにまゝに  
やうふあまてまゝすしの住ぬれつゝもまゝに  
しつゝとたて饗とすも此のまゝはこゝろにまゝに



春日祭  
拵案  
クニ抑チ  
以テ制之

一尺二寸又搦十本



延喜式木工寮式云

搦案シモト神事并年搦案以搦為之長五尺三寸廣三尺

四寸高二尺五寸云々

人車記云仁安元年十一月廿四日鎮魂條東牙一間

立搦棚亦安祭物又併立鈴賢木云々

春日神殿守記ニ此案ノ事アリシヤウ覺ユルモノユ

操カヘシ見シニ見イテス覺キガヒカ尋ヘシ又コノ案ヲ

神供札トモイフ供神物ニ依テ大小アリ先年或人ノ藏ヲ

モテウツス搦ノ數十九本則圖ノ如シコタヒ小搦元雄主

ノ藏神供ヲ見ルニ搦ノ數十八本ナリコハ搦ノ太細ニヨ

リ搦ノ數ニハカハラス寸尺ヲ合セテツクルルヘシ尋テ

知ヘシ

御壁代

長七尺三寸

幅一尺一寸仕立上ケ但一流ニテ

紐長七尺六寸五分

幅一寸五分各鯨尺ナリ

惣躰白羽二重ニテ裕縫

紐紫羽二重裏表正ニ同

取ニ付但白ノ蝶鳥ヲ画

綴糸練線練ナリ

江家次第云 元日第會

身屋九間内四面壁代

惟饗之

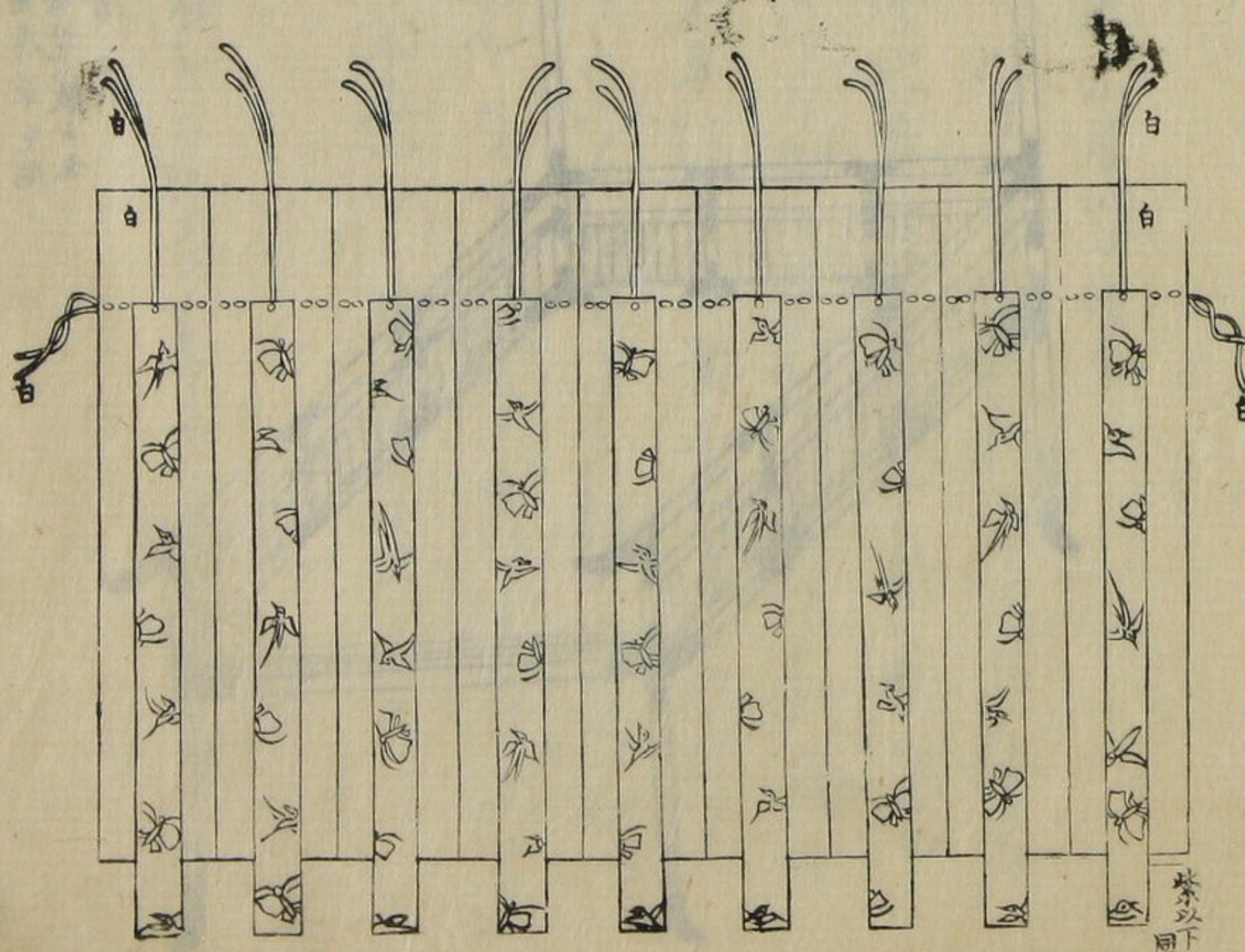
若天皇不御之時從

身屋東第四間西柱

南北行搦簾臺西六

間身屋南間亦懸之

雅亮裝束掛ニ壁代ノ下  
クハシ合ミテ知ヘシ



紫以下同



南殿御倚子之圖 十一之一

惣地朱漆金物金滅金菊唐草毛彫  
腰之スカシ青塗間每九本ノ立ル也  
御墨雲綱 行支官調進

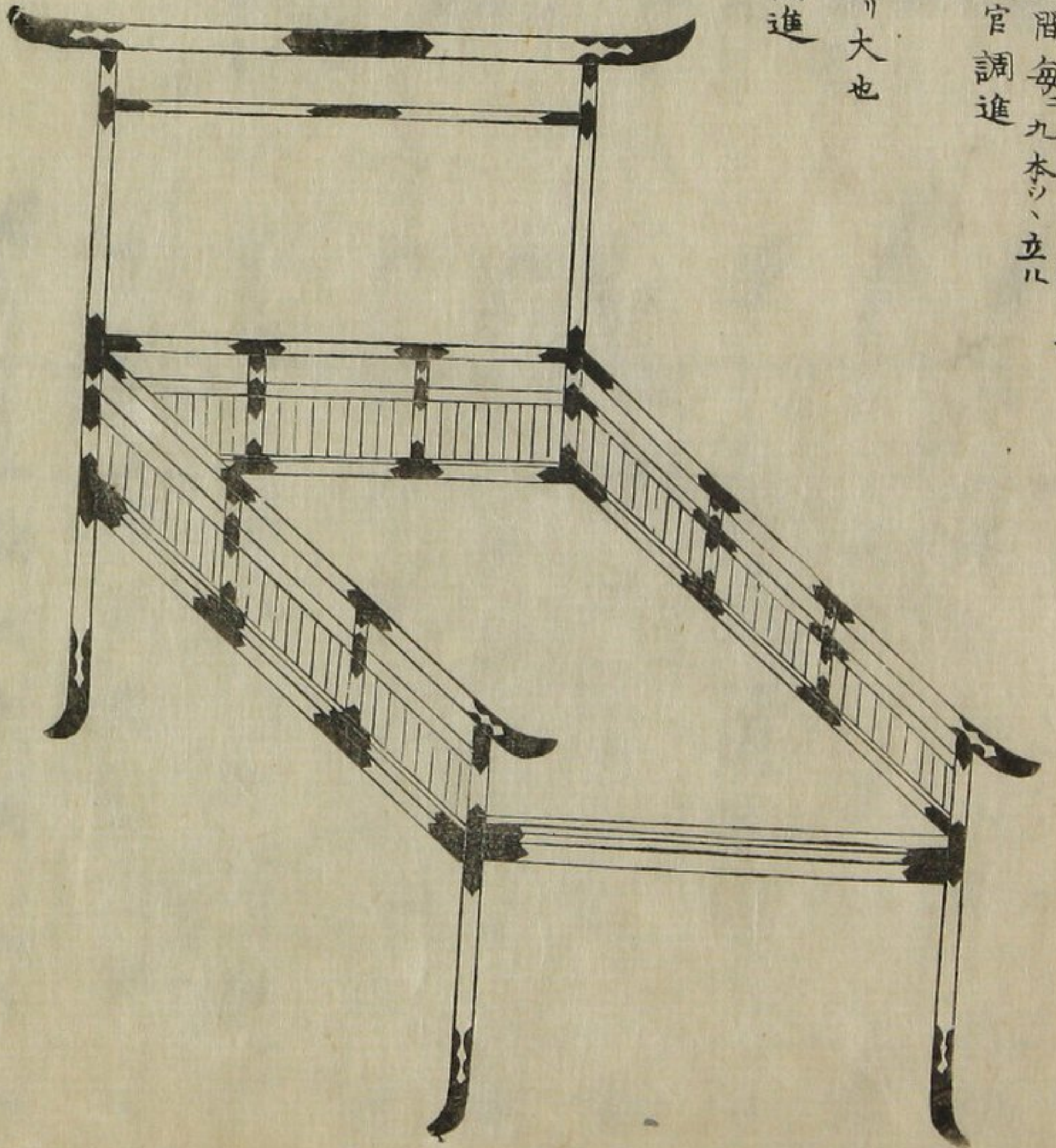
殿上御倚子

黒漆寸法一廻リ大也

右出納調進

禁秘抄云

倚子覆出納且暮  
奉仕之懸掉之



辨内侍日記云建長元年四月廿日條云

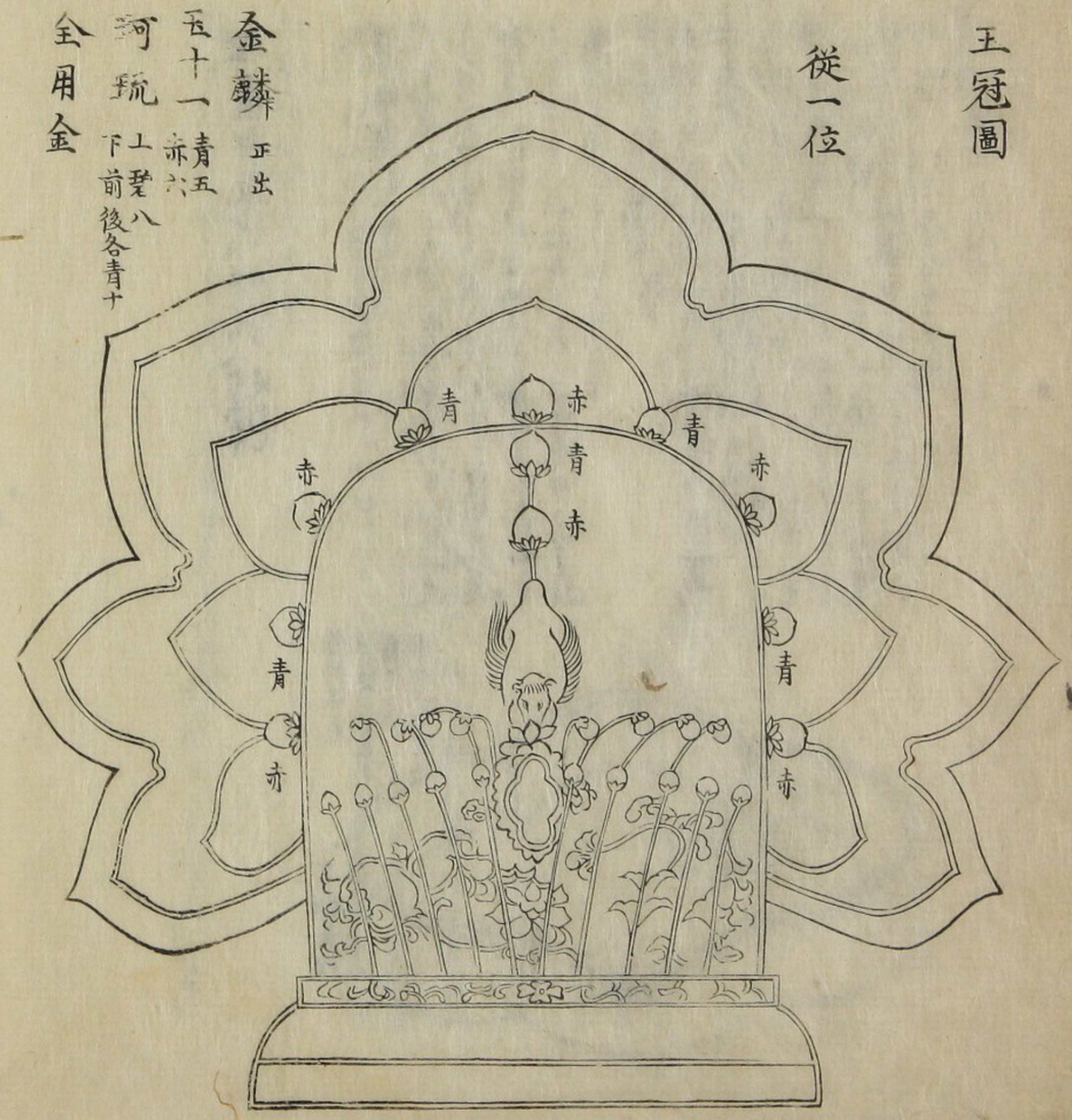
世日大なる所乃其ノレ其ノレ其ノレをニシテ其ノレ  
水ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ  
あハ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ  
乃其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ  
あハ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ  
少ク其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ  
其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ  
以テ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ  
其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ

其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ其ノレ



王冠圖

從一位



金麟 正出

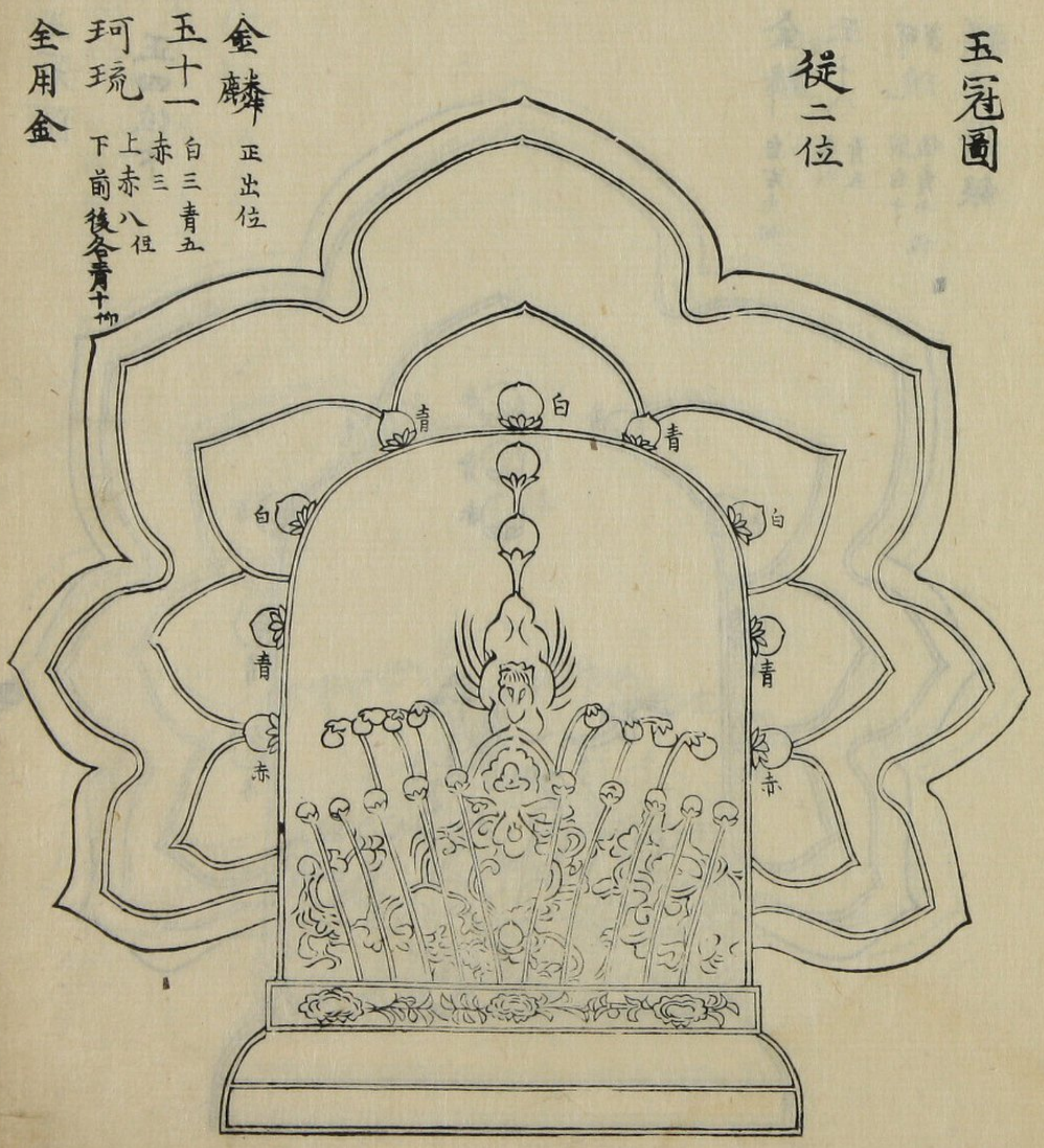
五十一 青五

珂珣 上 赤六

全用金 下前後各青十

五冠圖

從二位



金麟 正出位

五十一 白三青五

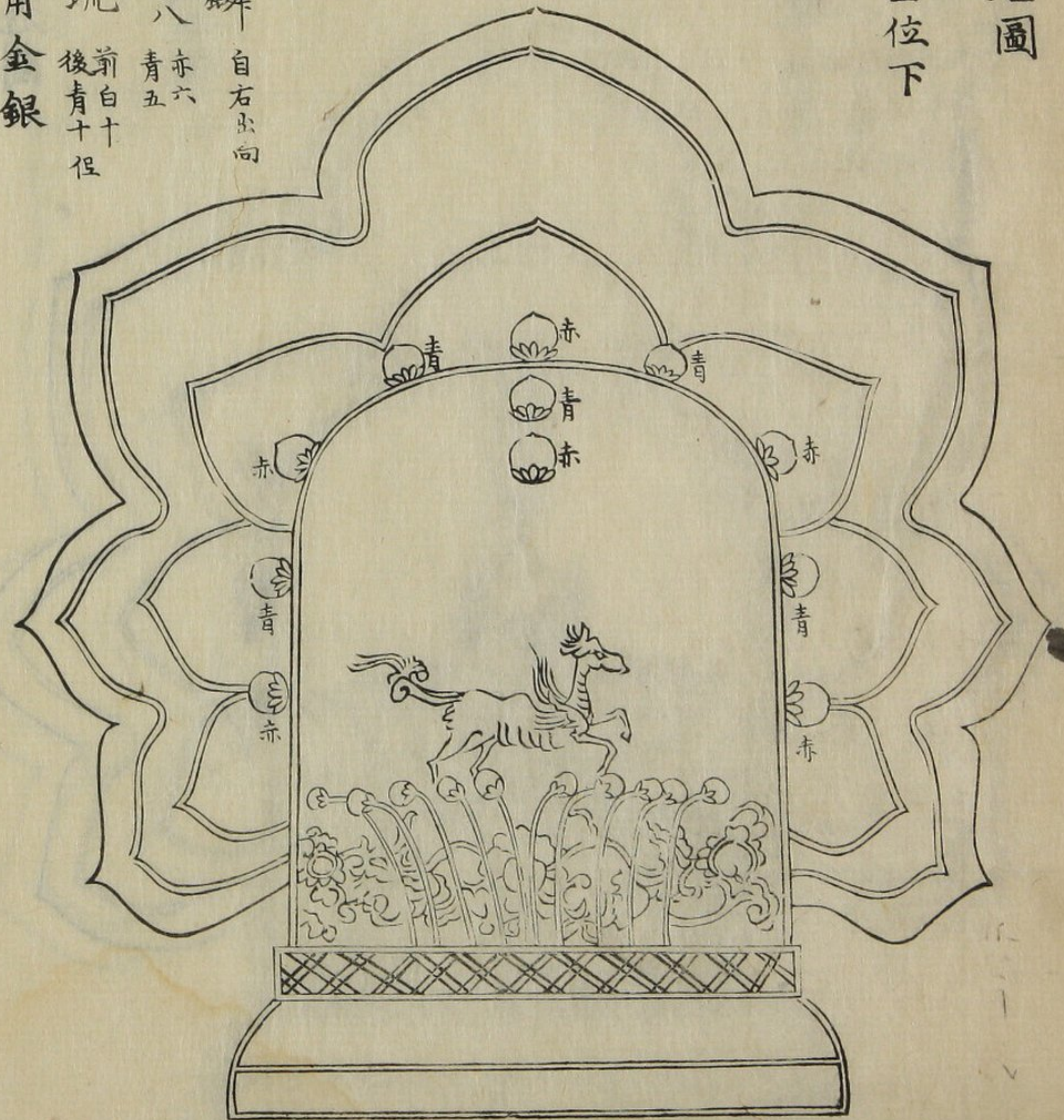
珂珣 上 赤三

全用金 下前後各青十

玉冠圖

正四位下

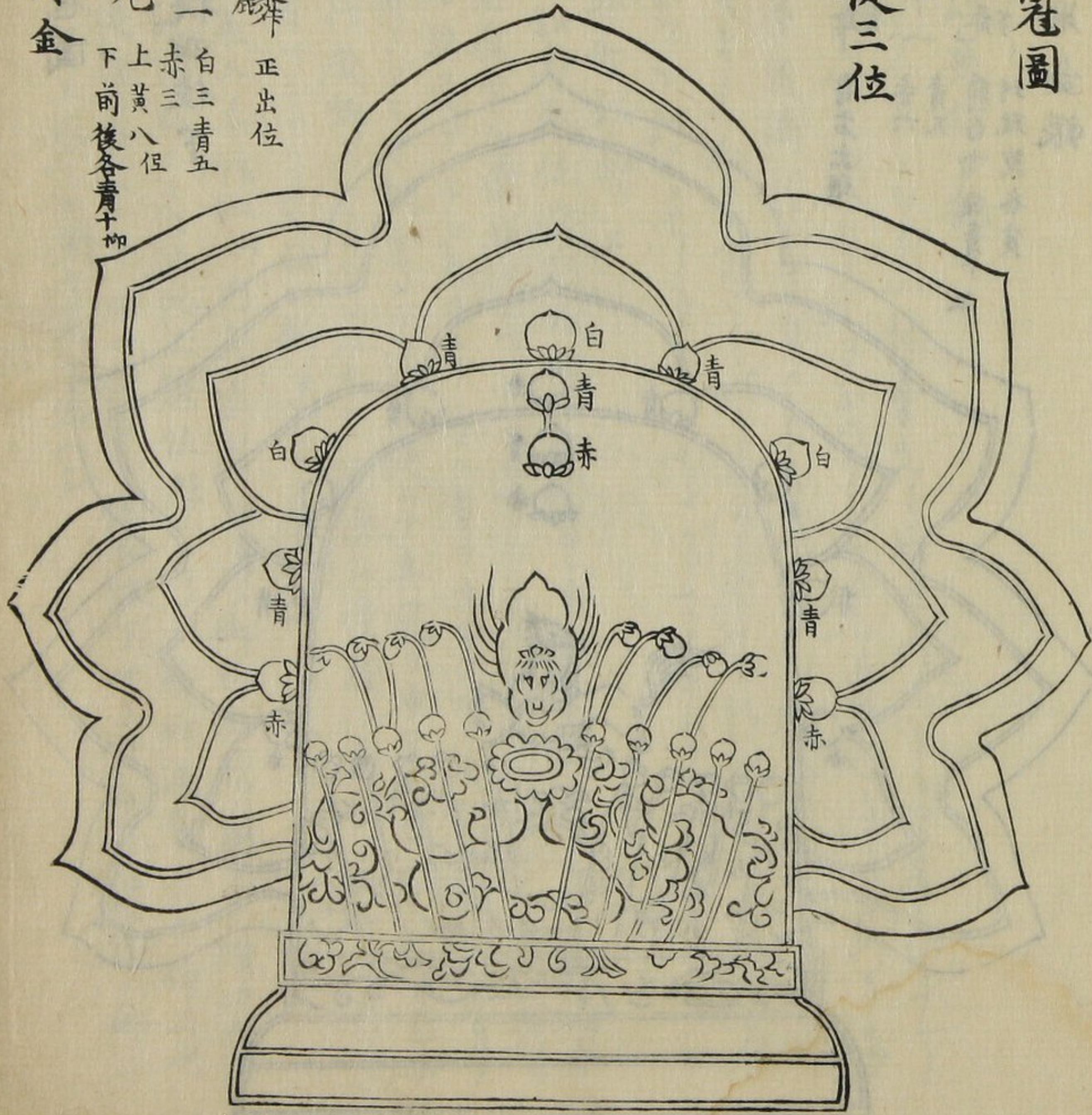
金麟 自右出向  
玉十八 赤六 青五  
珂琉 前白十位 後青十位  
樣用金銀



玉冠圖

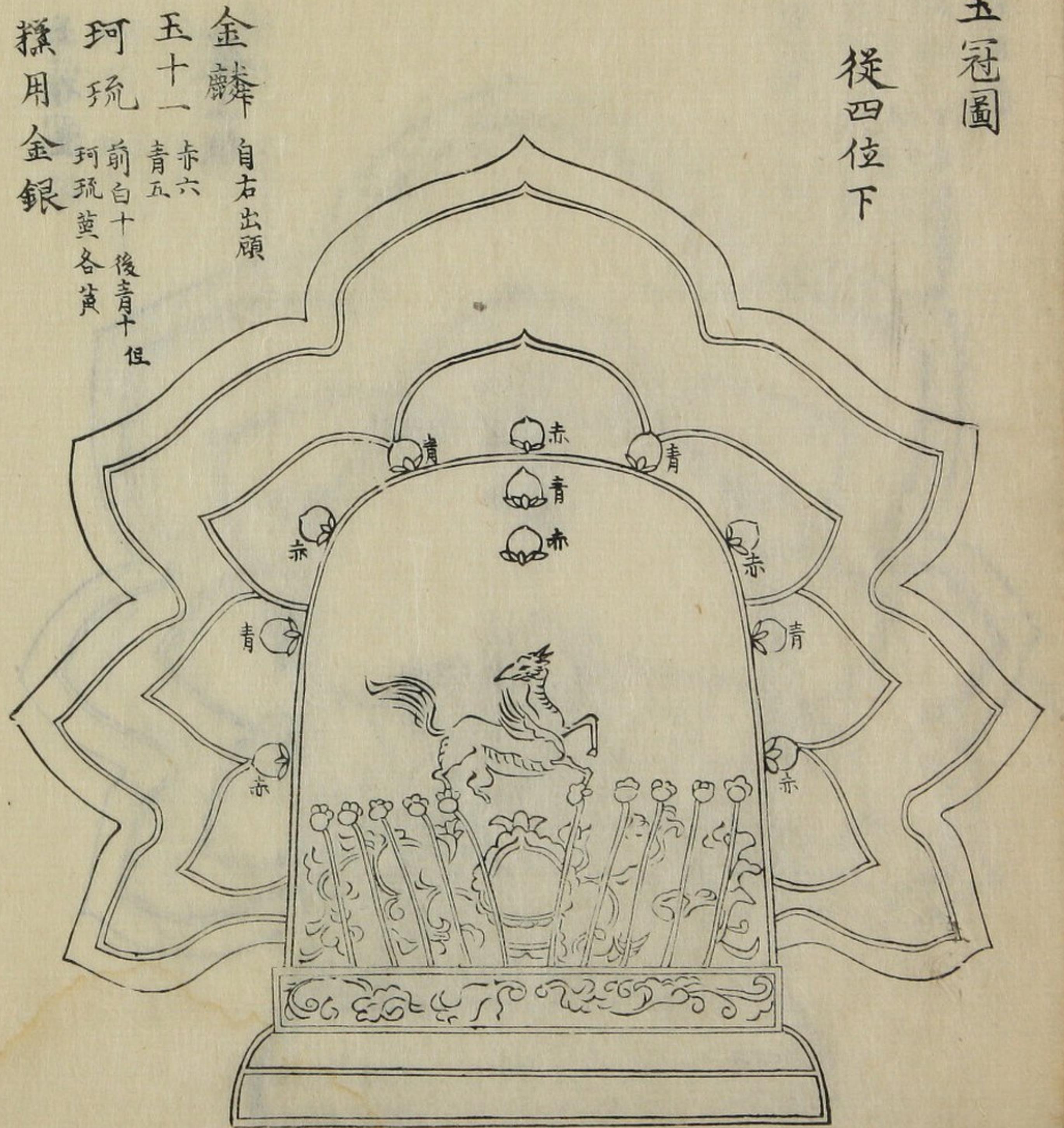
從三位

金麟 正出位  
玉十一 白三 青五 赤三  
珂琉 上黃八位 下前後各青十位  
全用金



五冠圖

從四位下



讚岐典侍日記云

日たうくさうりふりきうりぬさめしとあひしう  
 殿りしきんさうりぬさめしとあひしう  
 うち近漸はくさうりぬさめしとあひしう  
 みもさうりぬさめしとあひしう  
 さうりぬさめしとあひしう

助各智秘抄云  
 寛和御即位ニハ行成卿ツ中納言ニテ宣命使タリケル興福寺  
 ノ宝藏ニテハ禮服ヲタマハリテ著タリケル其玉ノ冠ノイレモノニ其日  
 廿法進退ヲメテタキ手ニテ委ク書テオキタリ大炊御門右大臣ノ  
 久寿ノタヒ中納言ニテ宣命使ニテ其冠ヲ申タマハラセラレタリニ  
 其行成卿ノシルサレタルモノハ見侍シ禮服ハ累代ノ物ヲ申タマリ  
 テ着フモアリ又私ニ新ヲトノヘテ著ルフモアリ云々

嘉業二年鳥羽御即位御物玉冠ノ圖アリ讚岐典侍  
 日記圖解ニノス又此玉冠位階ニヨリテ麟珂流等カハリ侍ル也  
 正後位又カレリ正一位ヨリ後五位下マテツハラカニ冠服ノ部ニ  
 ノセテ三卷トス開キ見テ知ヘシ

高臺寺所安  
豊太閤像



○新湯殿のしる日記文禄四年二月二日條云

二月三日ふらふらゆ中山ありしとき志つりしりよよく

大秀吉新入ふの法おいて法を志つりしりよよく黄金二枚

心秀頼ひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

と出ありしりよよく法を志つりしりよよく

大つりしりよよく法を志つりしりよよく

志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀頼もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀頼もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀頼もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀頼もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀頼もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

心秀頼もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく

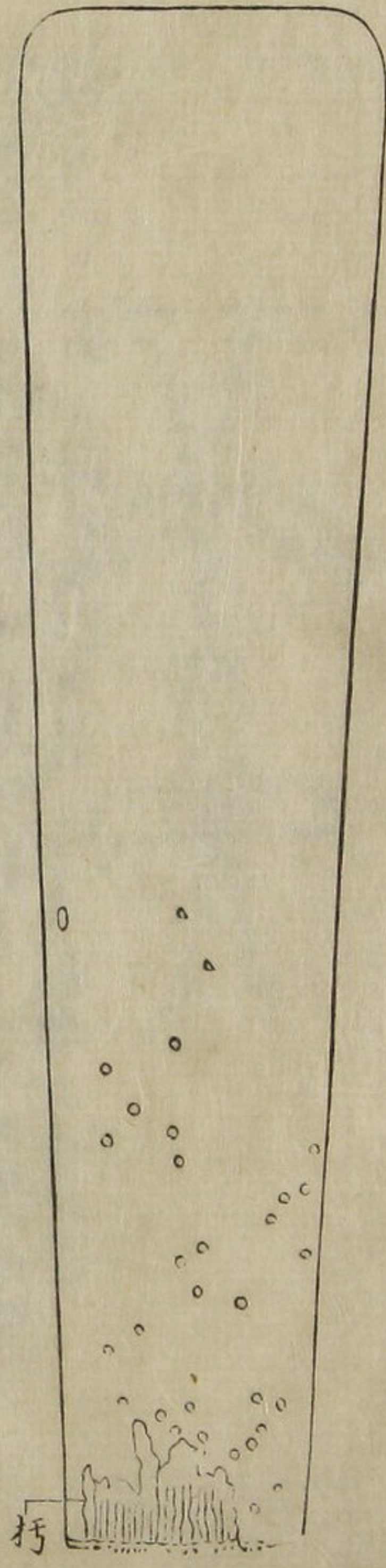
法隆寺所藏唐本御影 聖徳太子四十八百濟國の阿佳う業を

冠の制は皇朝の心 唐の冠の制は皇朝の心

心秀吉もひろく志つりしりよよく法を志つりしりよよく



御堂關白殿道義公御笏材櫨  
板目



長一尺四寸九分

今白小蘇

今白小蘇

今白小蘇

厚三分

厚二分強

厚一分半

笏管

蓋カウタカ 深一寸二分  
全躰黒塗  
身内スナコ 深一寸  
上三寸二分外リ  
下二寸三分

長一尺五寸一分



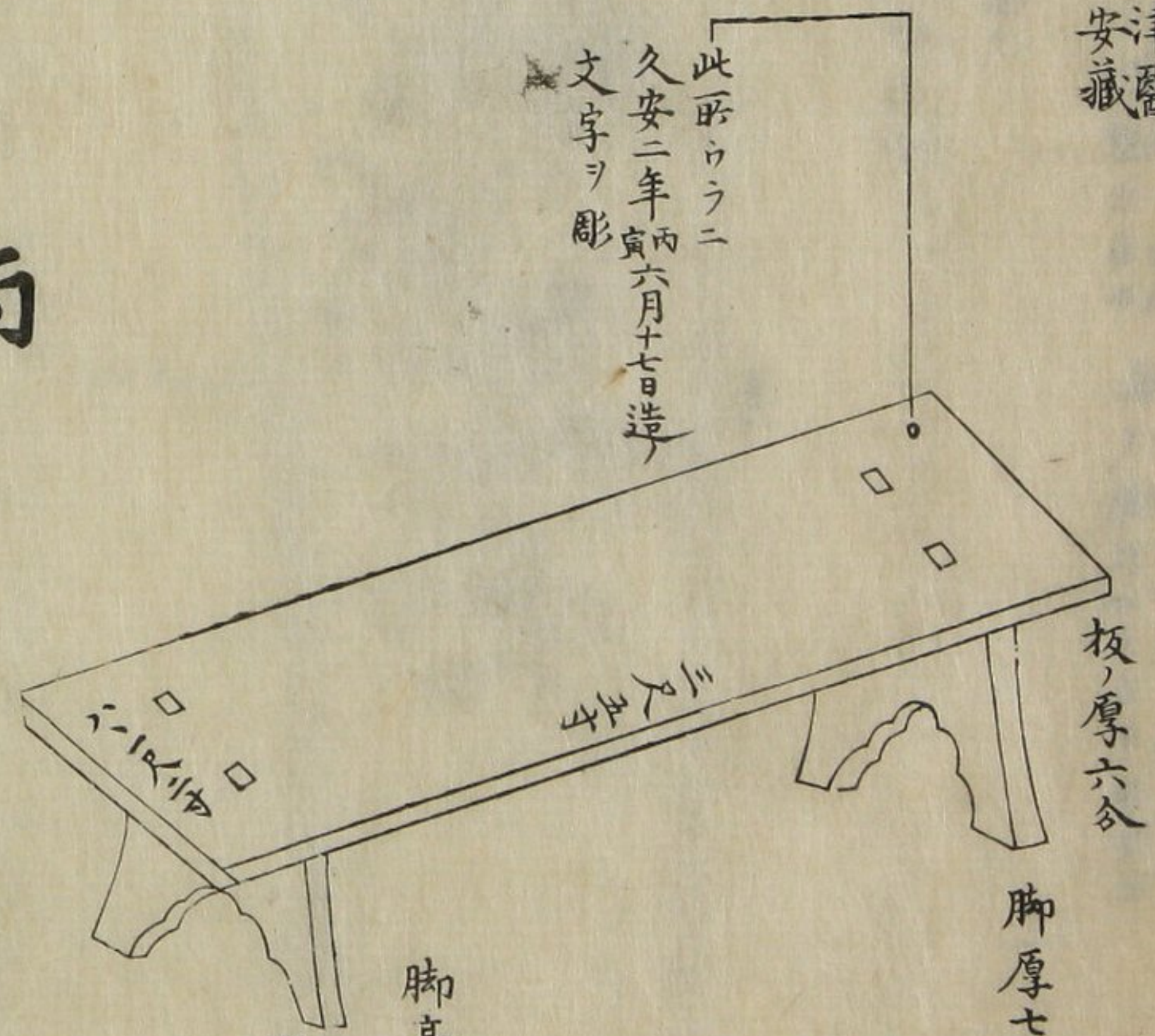
公光御記云  
仁治三年十月廿一日御撰行幸

取物 笏管 鞭首 豹 櫛代

取物持樣之申  
笏管如持 鞭管 同  
櫛代懸杖以左右手横持也  
櫛代懸左肩以  
櫛代懸右肩以



桐木古几圖 伊勢洞津醫  
庭田生安藏



此所ウラニ  
久安二年丙寅六月十七日造  
文字ヲ彫

板厚六分

脚厚七分

脚高八寸二分

脚楹ノ木  
コトニ

久安二年丙寅六月十七日造

東大寺所藏

彈棊盤 唐木

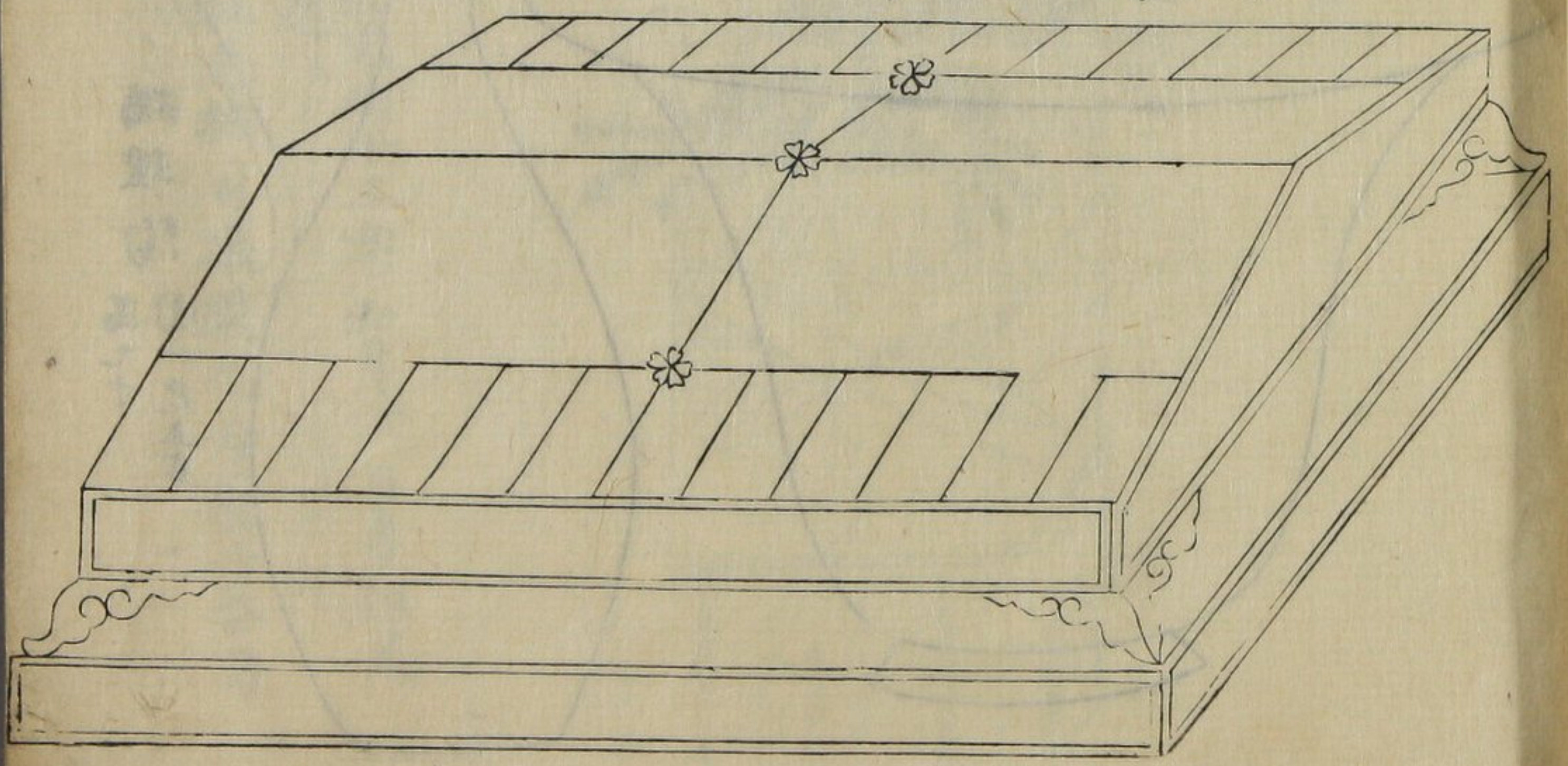
長一尺三寸  
横八寸  
目家牙

和名鉢云世説云彈棊  
今一名始自魏宮文帝  
於此技且好矣  
禁秘御抄云

火櫃 自十月至三月  
至四月撤

圍基彈棊等盤有  
臺盤所 近代冬不  
置之

臺盤所  
火櫃一圍基彈棊  
同殿上云々



東大寺所藏

瑠璃陶 高九寸  
圓一尺五寸



白瑠璃鉢 二

高七寸  
徑七寸



資益王記云文明十三年正月六日自松尾  
若菜二合進  
今時每春松尾社司進獻之若菜二合回  
如此

年中行夏秘抄云

齋ナシ 藜藿ハコベラ 芹セリ 菁アヲ 柳形コギヤウ 須々代スビシロ 仏座ハトケガ

金谷云正月七日以七種菜作羹食之令人無萬病

教本集一 人の終くまふまふとくくはうとくま

まふまふとくくはうとくま 権修心公朝

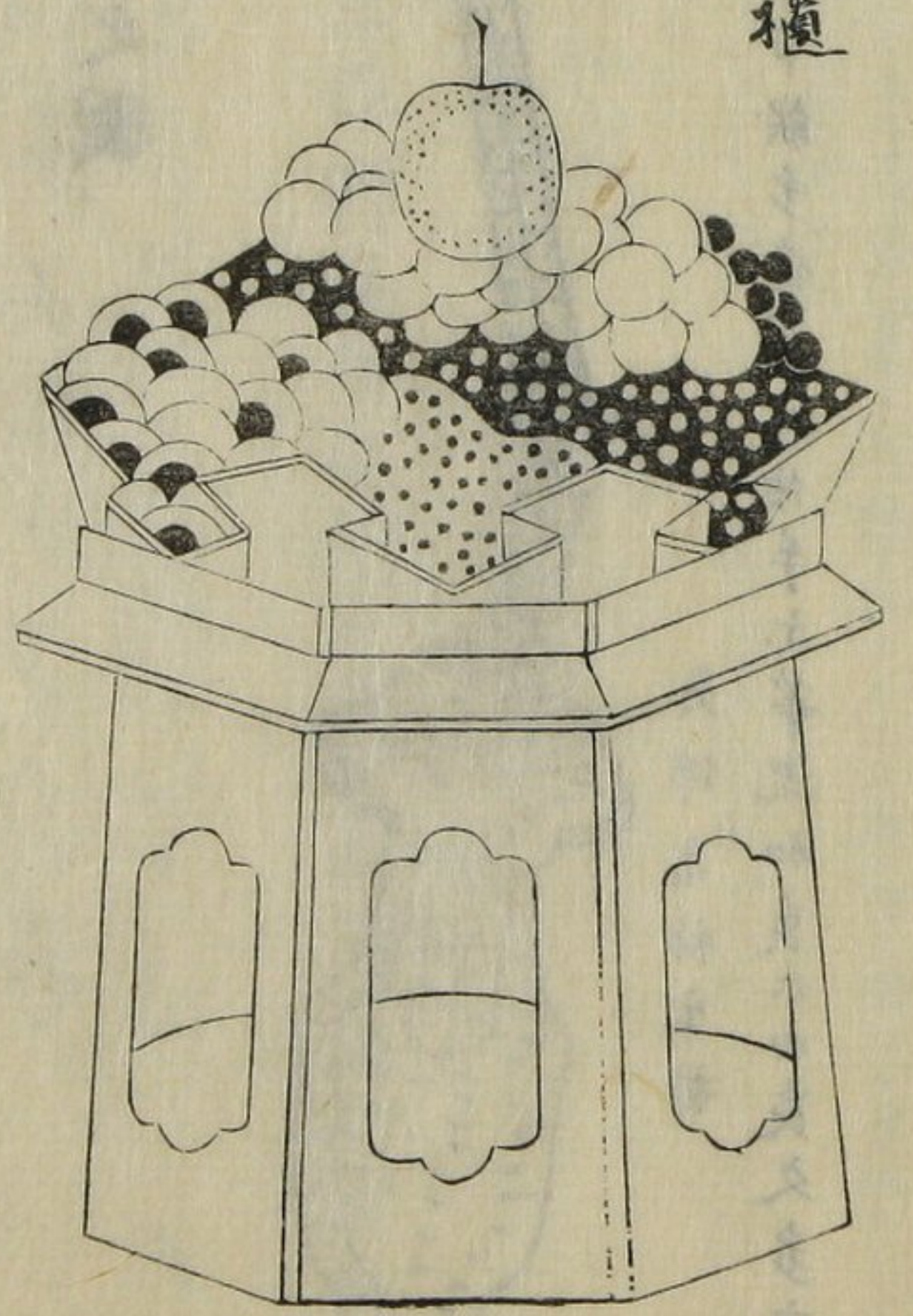
拾玉集 意鎮和尙

袖中抄 仲實和尙

五百番歌合云 權大納言実為

按義經記云七種の事あり加へ入三

折櫃

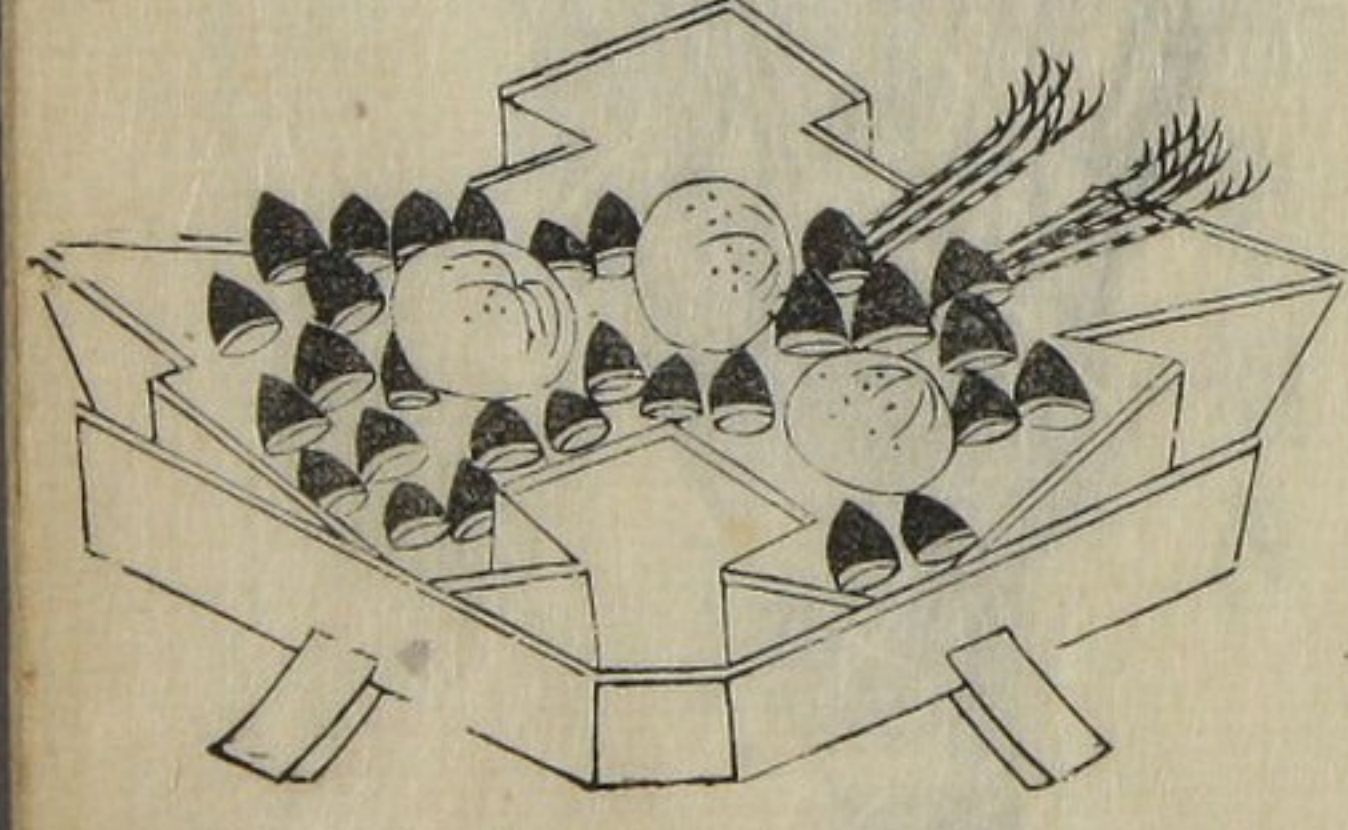


源氏物語まはら巻云

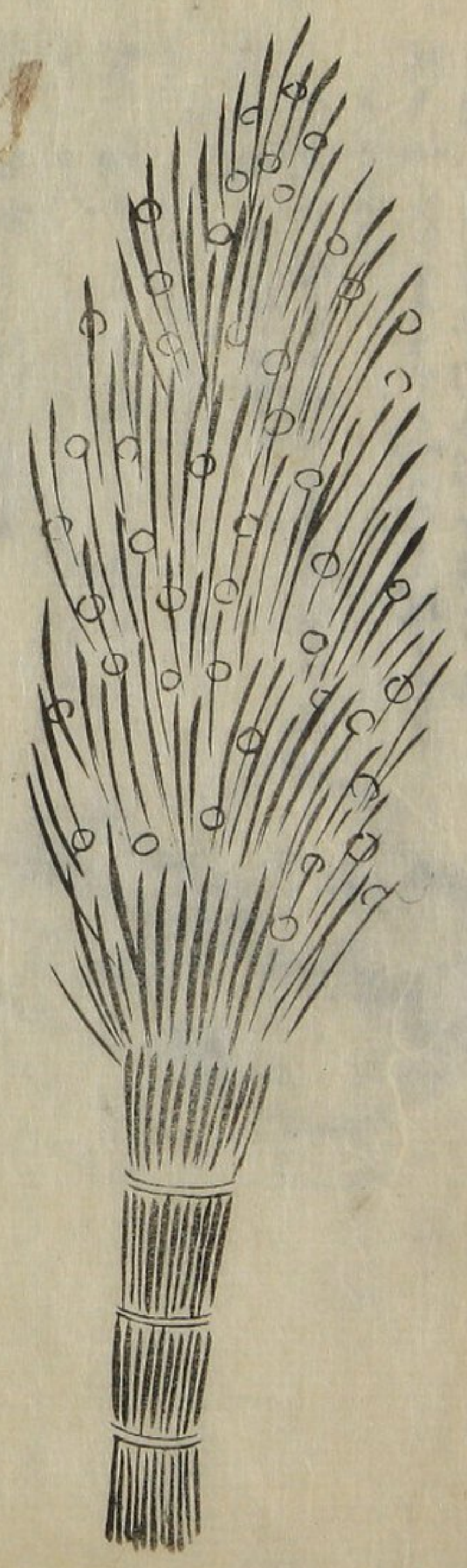
その日ありし門のあまのさや 古大御前うけ給うはうら

大藏卿行宗集云

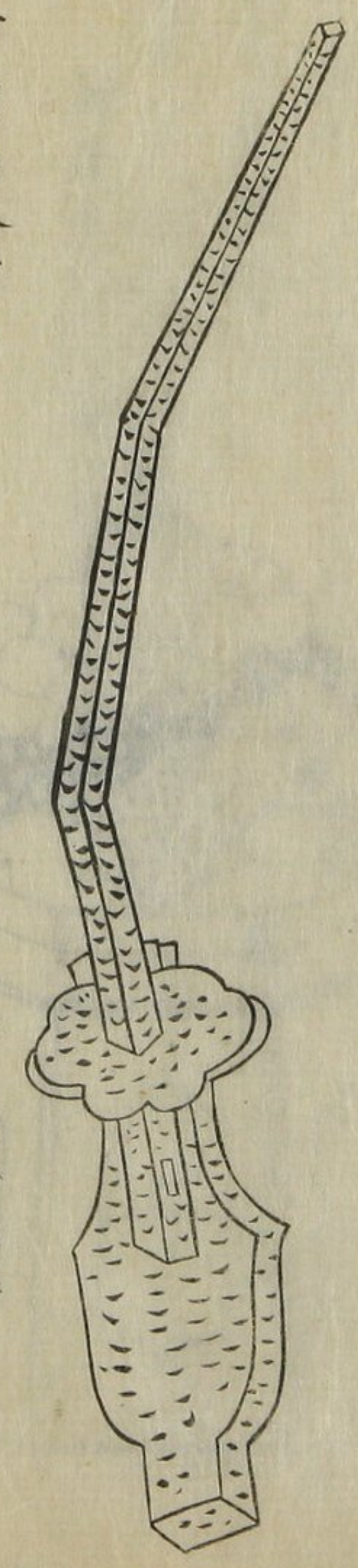
信使中納言まをらうものつらうん ちまゆ



東大寺藏玉筥圖



子日鋤之圖



万葉集卷廿

始春乃波都祢乃家布能多麻婆波伎手尔等流加良尔由良久多麻能乎

大伴宿祢家持

正治二年百首

内大臣正二位行兼右近衛大将皇太子傳源頼通親

多可侍けき子とせ乃もれとひりくも  
子乃飛めりし冬内りたりて

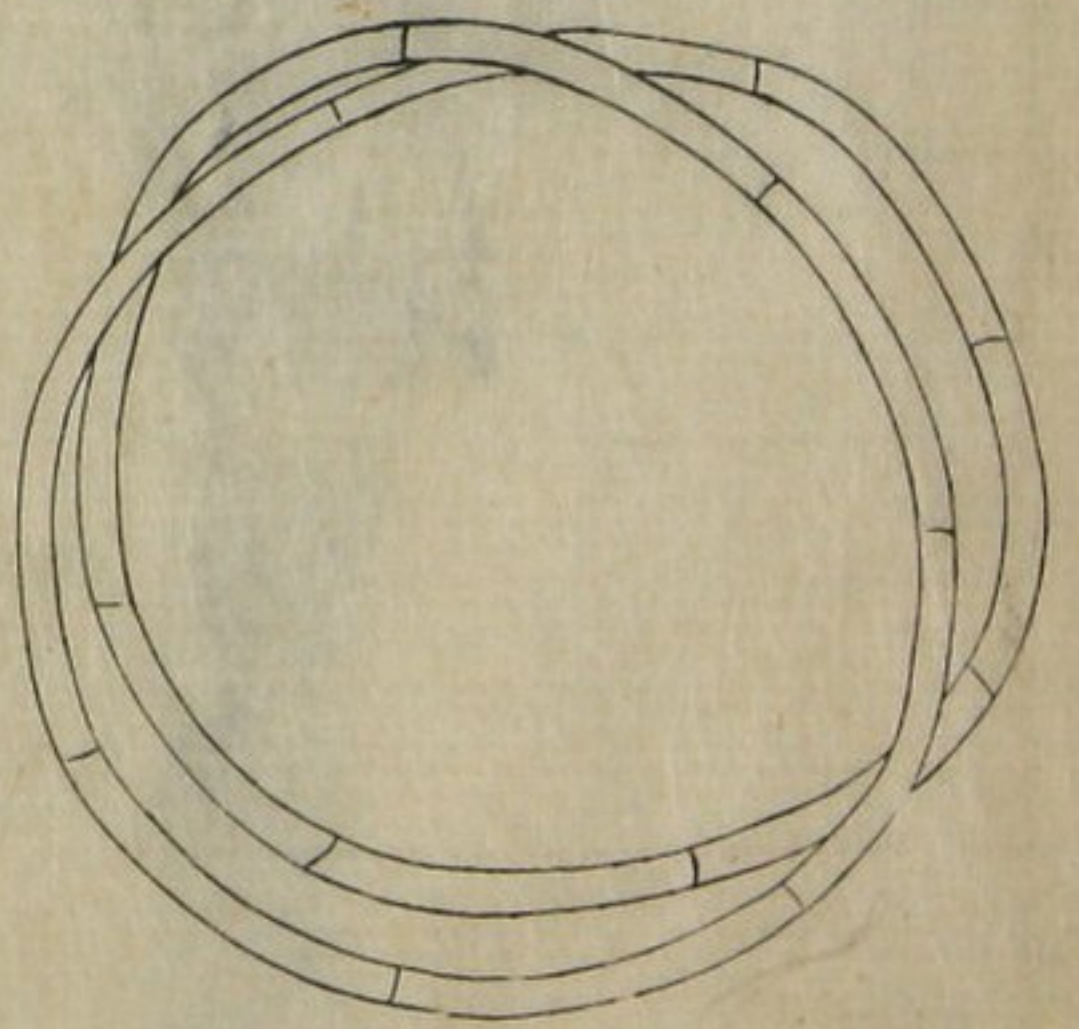
久安百首

隆季朝臣

あつらふはなれ乃く先りありたり  
志はつれなれはなれ

六月被茅ノ輪圖

茅カヤヲ輪カ子テ  
上ヲ厚紙ニテ巻リ  
ニテツケルナリ



院中年中行支云六月晦日入夜御盃事アリ云此時輪ニ入支アリ茅カヤニテ調  
上ニメサレ時ハ中臈内侍取之ナリ次ニ別當ヨリ以下藏人取之輪ニ入ヤウノ支右  
ノ手ニ麻ノ葉ヲ長一尺計ニ二三本紙ニツミ持テ左ノ足ヨリ入右ヨリ出ル以上三度  
ナリ此時哥アリ

ねりふとみふはきねとてあまの葉と手りふまりととけつるの  
公事根源云大後百官一同よあつて後とけつる也又よ家よ小輪とあつてあ  
みふ月あまの葉と手りふまりととけつるの  
此哥とてあまの葉と手りふまりととけつるの  
ねりふとみふはきねとてあまの葉と手りふまりととけつるの

按ニ菅貫輪トイフアリ  
園大曆云延文二年六月云抑六月被之事不及出座如秋修之菅貫計也云々  
宣胤卿記云六月被菅貫輪乱後略之云々  
此等ノ文ヲモテ思フニ茅カヤ或菅ナトテ輪ヲ作りトラニ故ニ茅輪菅貫輪ナトイハルハ

末木抄云 菅和後

氏部卿為家

〜佐川〜

にやしく

同

仲實朝臣

同

俊頼朝臣

同

隆源法師

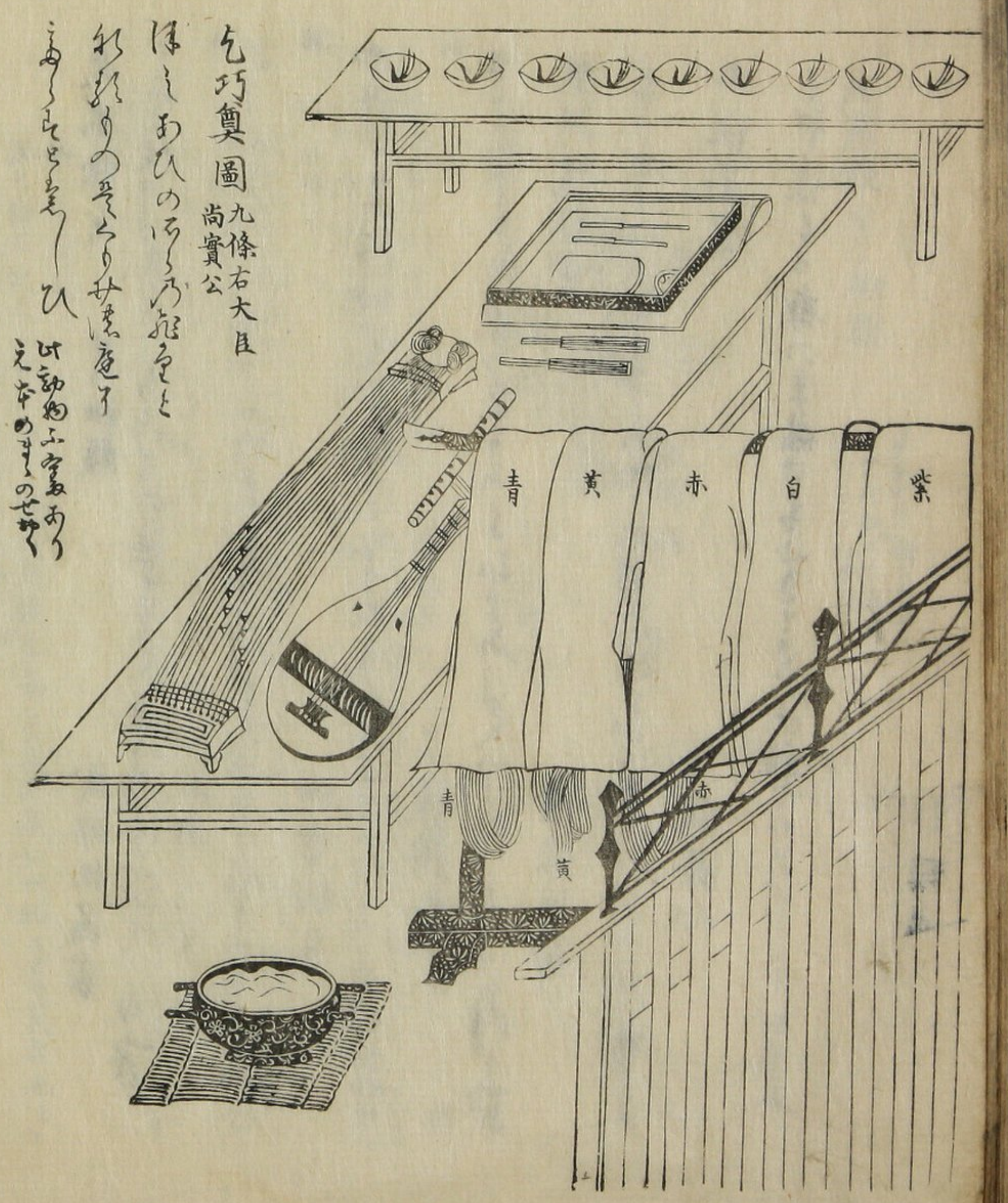
堀河院玉首

〜

俊兼々

五社玉首

〜



乞巧奠圖 九條右大臣  
尚實公

ほしあひのりくみ程を  
新形りのそくみほを  
いふとまをいひ  
け動物ふをあつ  
えをのまのせや

建武年中行夏云

七日藏人御調度とて夜とて乞巧奠あり座を机四と  
とて燈臺九本柱の  
そとちやうとて柱とて  
夜とてうとてそほのあつ陰陽寮とて養ひとてふ  
之のやうあり常はとて調度品は律法のとて也とて  
ひとて竹中とて人すとて  
公事根元の文とてとて

後拾遺集

七月十日あり

小大名

乞巧奠のそくまをいひの文とて  
一巻とてとて

建礼門院右京集

紫禁秘分集

乞巧奠のそくまをいひの文とて  
一巻とてとて

十界繪卷物語載  
綾蘭笠圖

今昔物語廿五平維茂尉藤原諸任語云  
大キナル草毛ノ馬ニ乘テ緝ノ襖ニ敷冬ノ  
衣著タル者ノ綾蘭笠ヲ著テ長毛行騰  
シタル中ニ勝ニテ主人ト見エ侍ツルト  
イハ大君ノ云ク其ハ餘五ナラム云  
畫後守高忠開書云寛正五  
かきわけいれぬ也蘭は乃ちあまのこころふ  
よりて笠うかひのあまのこころふ  
綾蘭のこころふの綾蘭の遺風云々



再按編笠ハ綾蘭笠の遺風云々  
東大寺ハ幡宮ノ神庫ヲ所納の如ク  
或人の記云ク今ノ編笠ハ  
記云五大院古衛門宗繁孀相模太郎事隆云云  
中間子太刀持云々傳馬云々の  
小戸云々ハ綾蘭笠ハ編笠云々  
神庫の如ク也蘭も編笠ハ  
みまもつしハ蘭も編笠ハ  
たるさぬハ蘭も編笠ハ  
あれ

立柱上棟次茅 楸心寺藏云  
 曰檜扇注之

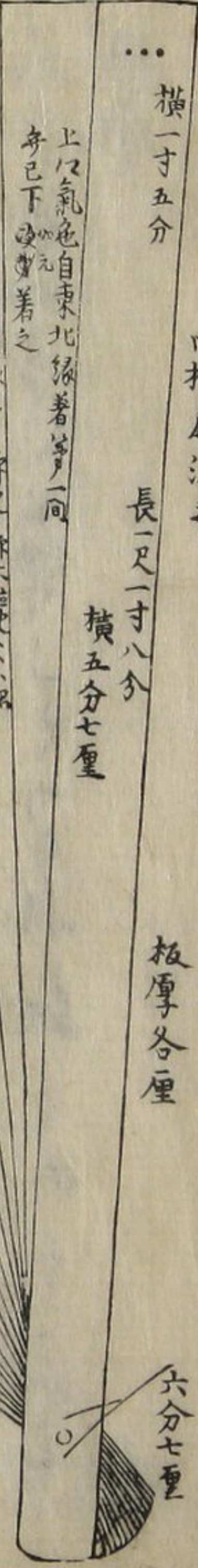
... 横一寸五分

長一尺一寸八分

横五分七厘

板厚各厘

六分七厘



上ハ氣色自東北縁着第一向  
 舟已下 變着之

次上御問吉時 上ハ作舟、作史、作六倍史、  
 官筆、後陽、官筆作、上庭、上、之

行向ハ、掃參申吉時  
 次第又申上之

次次第事可不知之由作之仍觸作

作所 以官掌作之

次大敬使人看鼓南座 掃部  
 長官

次天工 東前、引、辨、引、  
 次、辨、引、  
 次、辨、引、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

次大敬 進、其、上、上、  
 次、上、上、上、上、

海人扇芬云

檜扇僧綱 廿五 脚扇 凡僧 廿殿 上三 橋 扇 十五 歳ヨリ内

非職綾摺扇用之也

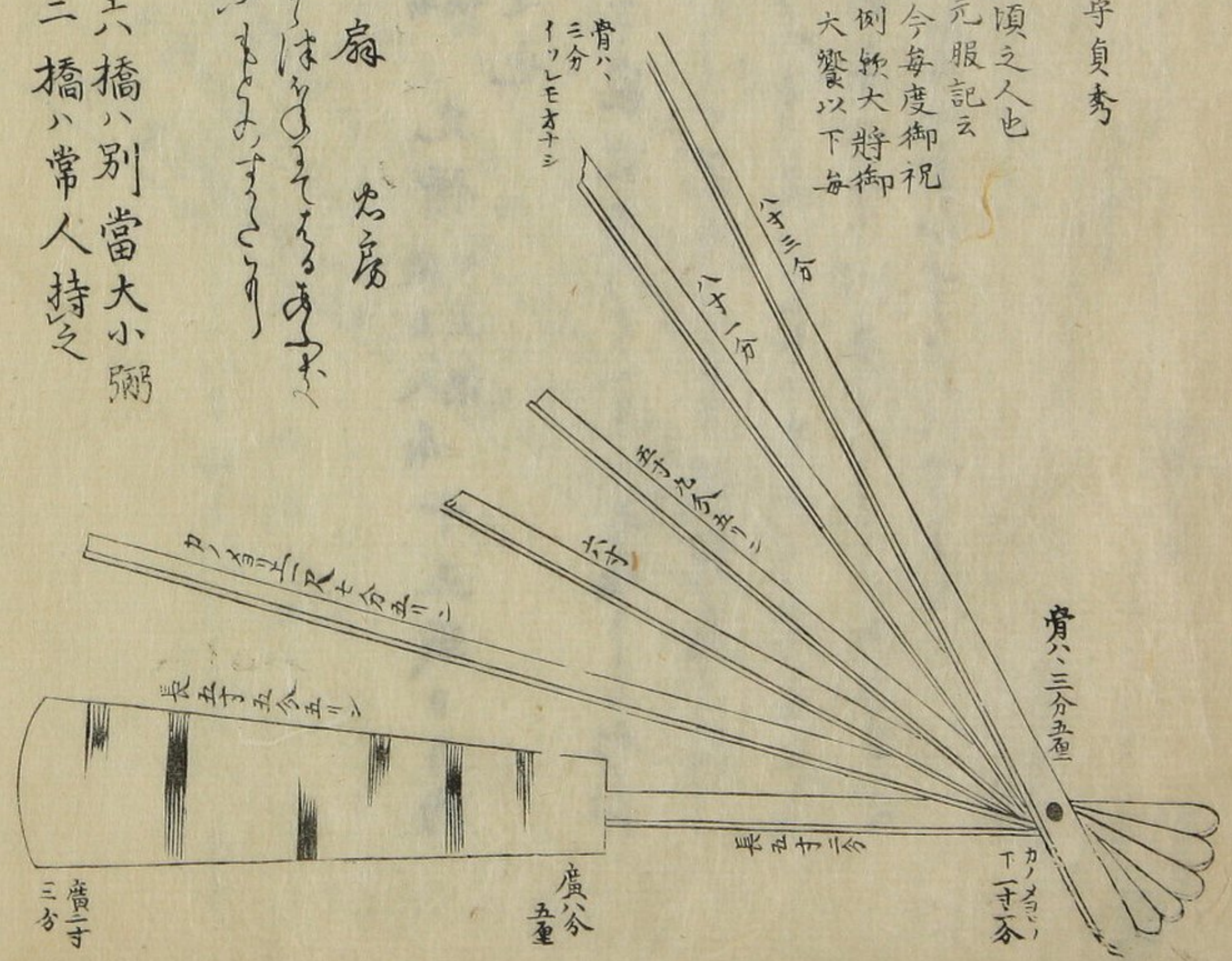
立柱上棟の事家記ありて一、志、後、し、竹、  
 へ、は、中、へ、少、い、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、  
 陸、舟、へ、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、  
 し、こ、い、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、  
 あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、ま、は、あ、り、



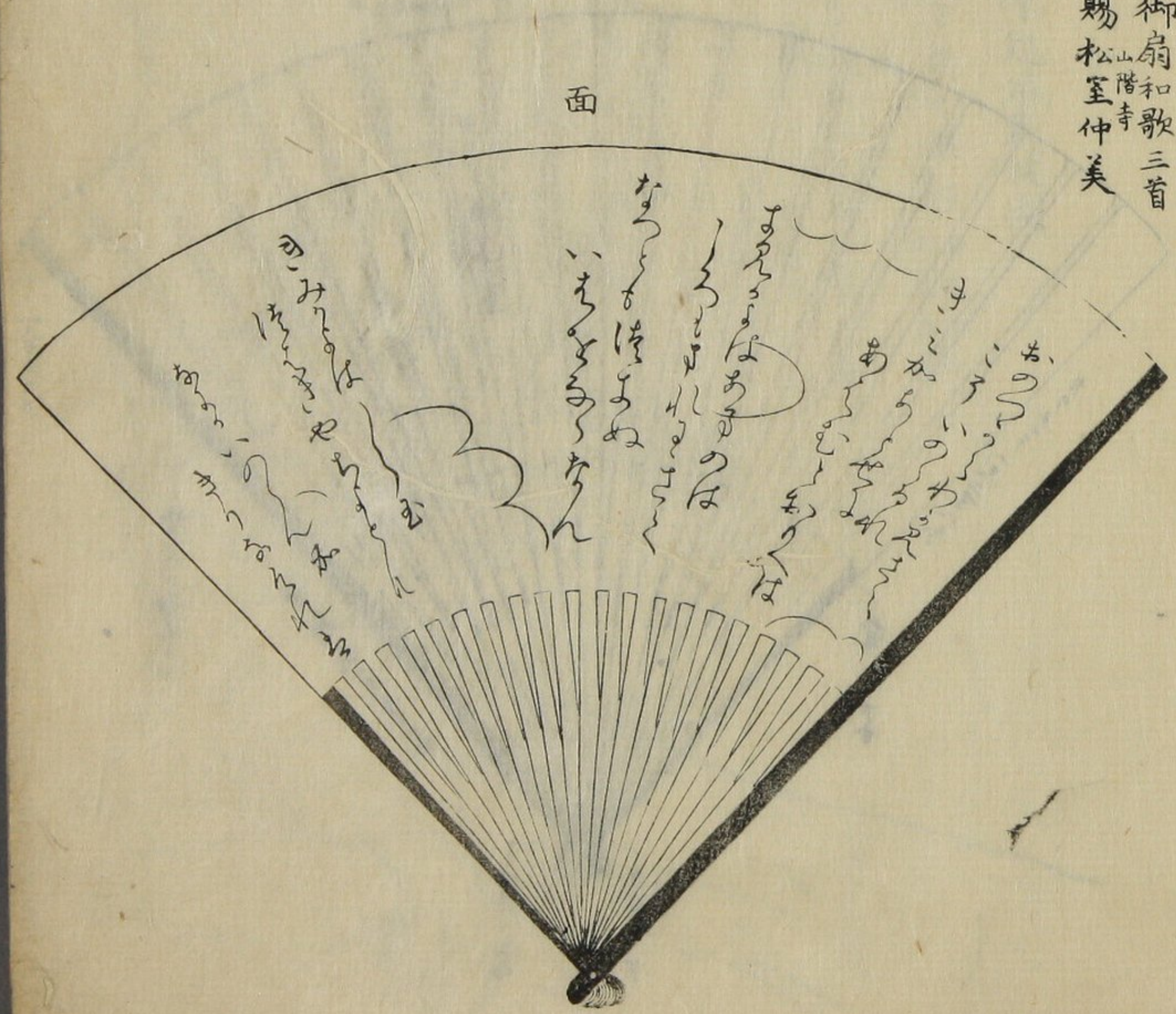
蘇木骨扇 松田丹後守貞秀 遺物

丹後守貞秀者應安頃之人也  
 鹿苑院殿義滿公御元服記云  
 一自御誕生之日至于今每度御祝  
 貞秀奉行可謂御佳例歟大將御  
 拜賀行幸供奉大臣大饗以下每  
 度于今奉行之

永久四年百首 扇 忠房  
 海人藻芥云  
 蝙蝠扇橋事六橋八別當大小彌  
 延尉持之十二橋八常人持之



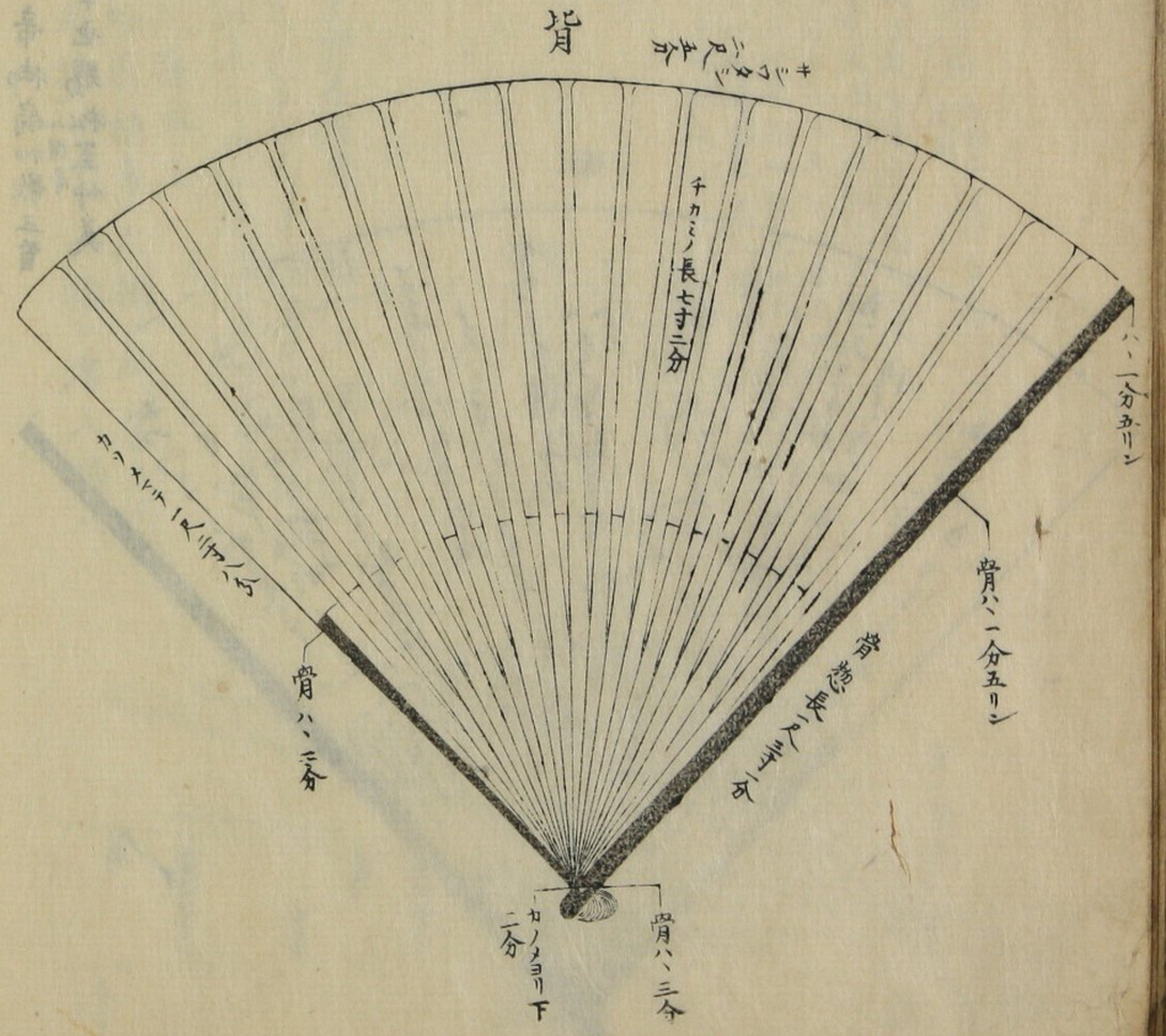
村上帝御扇和歌三首  
山階寺  
 長筆也賜松室仲美



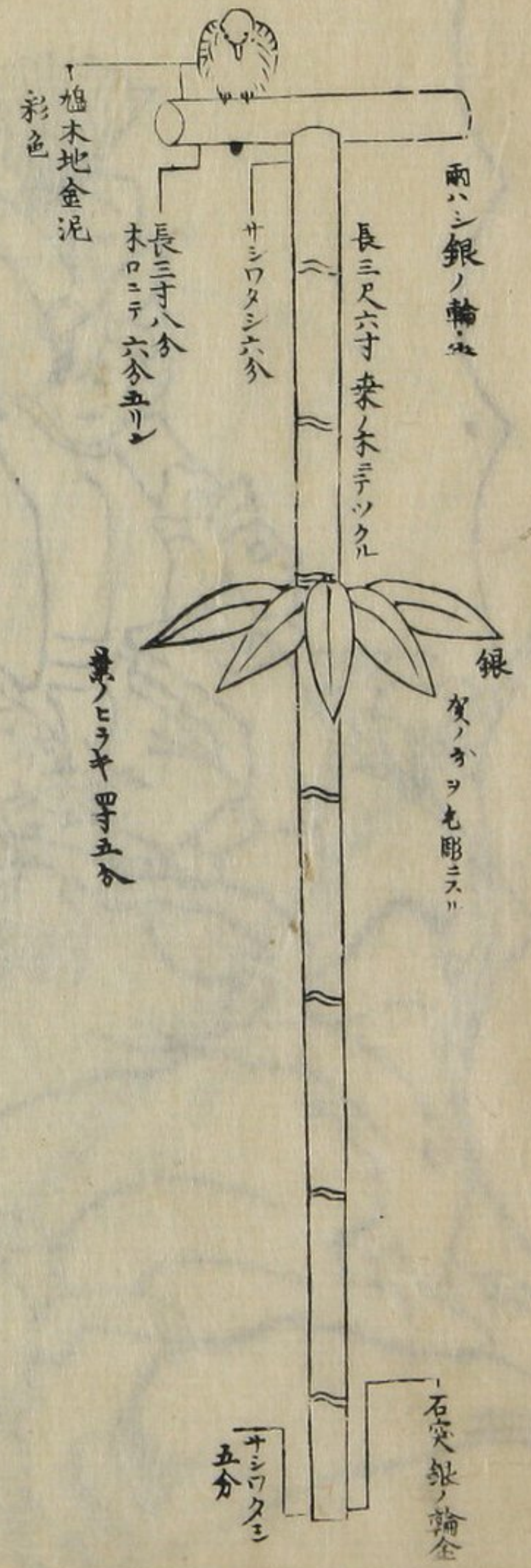


持金剛寺縁起取載杖圖

和名鉢云唐韻云鑑音與羅同加音都惠  
 大鐵杖也云々  
 其小者下小の法也其の法也  
 なる一表也



旭杖



夫木板云 杖 源俊賴朝臣

旭杖の杖 杖 長笠内大臣

同 旭 源家長日記云 俊成は九十賀命

まみへひふりせぬふりてとて人乃も杖とつてあつて

平家物語大元より人の條云

三井寺 此高は今諸種新なる用事なり古くより信じて居る者たつぬ

此高は今諸種新なる用事なり古くより信じて居る者たつぬ



かやうふ法くわる者ありんはれり古制  
なりんはれり古制  
なりんはれり古制

駿牛繪詞云

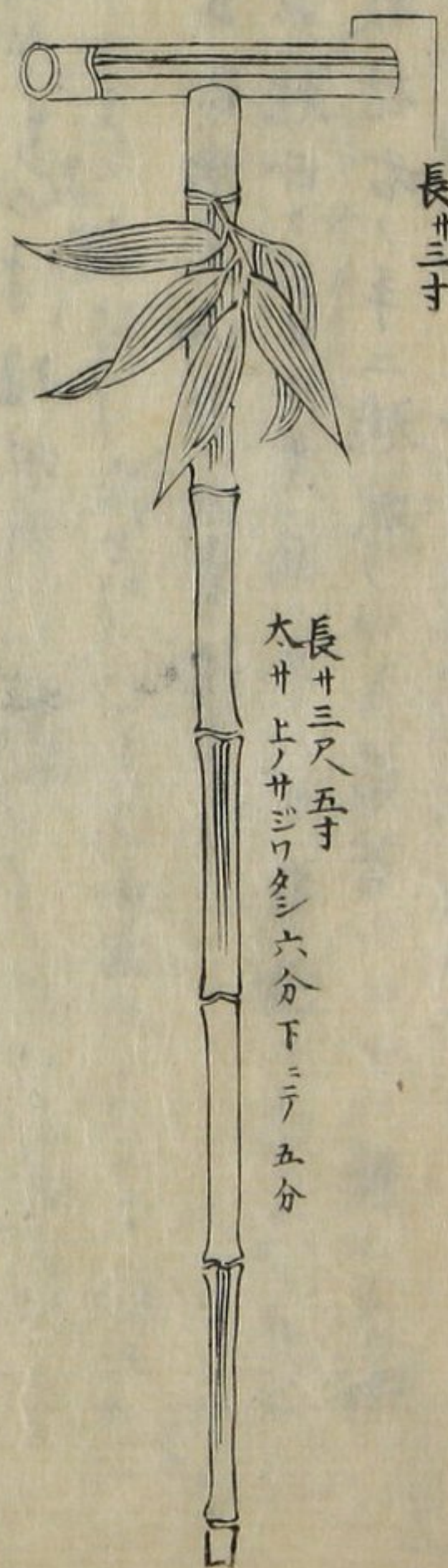
山一岳乃藉洞としめく一糸圓形のよとて  
いふ大いしき草をなすく九品地生りり  
いれ隠れあり去五月より舊年よりそれり  
うさむ一たむはは旭杖のよとて  
と匍匐ししひはのりりふか後乃りり

太平記民部卿房御夢想事條云

夢ニ衣冠正リシタル老翁ノ年八十有餘ナカ九ノ年ニ  
梅花一枝持右ノ手ニ旭杖ヲ以テ最苦シテ九體ニテ御

房ノ卧タマヘル枕ノ邊ニ立タマハリ云々 此外ニ所ニアリ

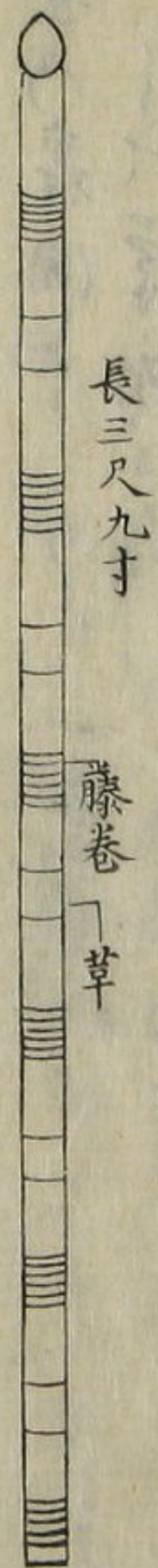
御賀杖



長廿三寸

長廿三寸五分  
太井上ノサジワ冬シ六分下ニテ五分

東大寺藏水晶御杖



長三尺九寸

藤巻「草」

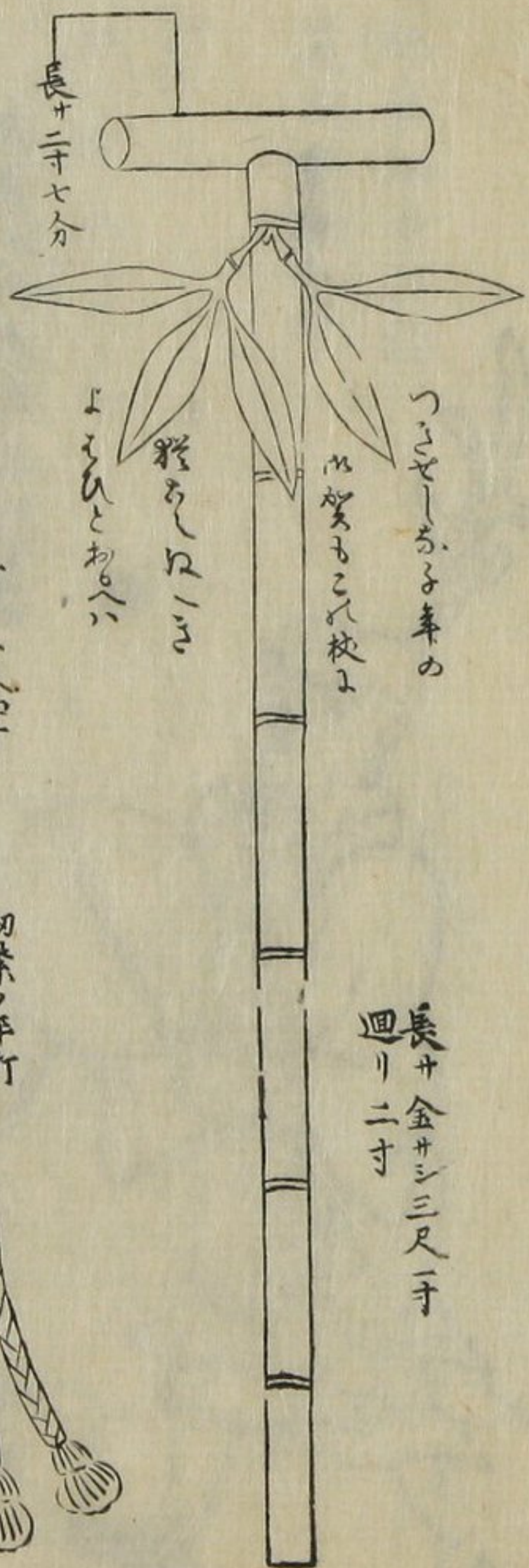
加茂祭繪巻物取載 鹿背杖

和名鈔云四聲字韻云杖反上  
直兩  
名都惠和以竹木為之所輔老  
人也



御賀杖

銀竹泊ヲオス



長廿七分

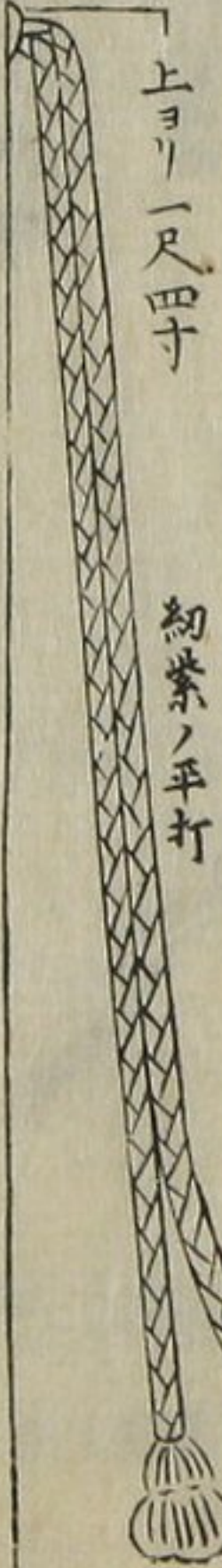
つこせーふ子奉の

此杖もこれ杖よ

雅あしぬい

よこひとあへ

長廿金サシ三尺寸  
廻リ二寸



初葉ノ平打

上ヨリ一尺四寸

上ヨリ一尺九寸ヨリ書出

表 白練

口九寸

去の杖よりらよに

ハ子世とこ先てしも

ありぬや

袋ノ長廿四尺二分ホト

裏 紅

上ヨリ二尺四寸ヨリ書

長廿五寸五分

ありぬや

年

東大寺所藏御杖

竹長三尺五寸



同藏加世杖

玳瑁六角

草卷

藤



和名鉄云唐韻云匙  
此禮及與體同  
漢語杖匙加世  
都惠一  
云杖橫首杖也

文永加茂祭繪卷物所載

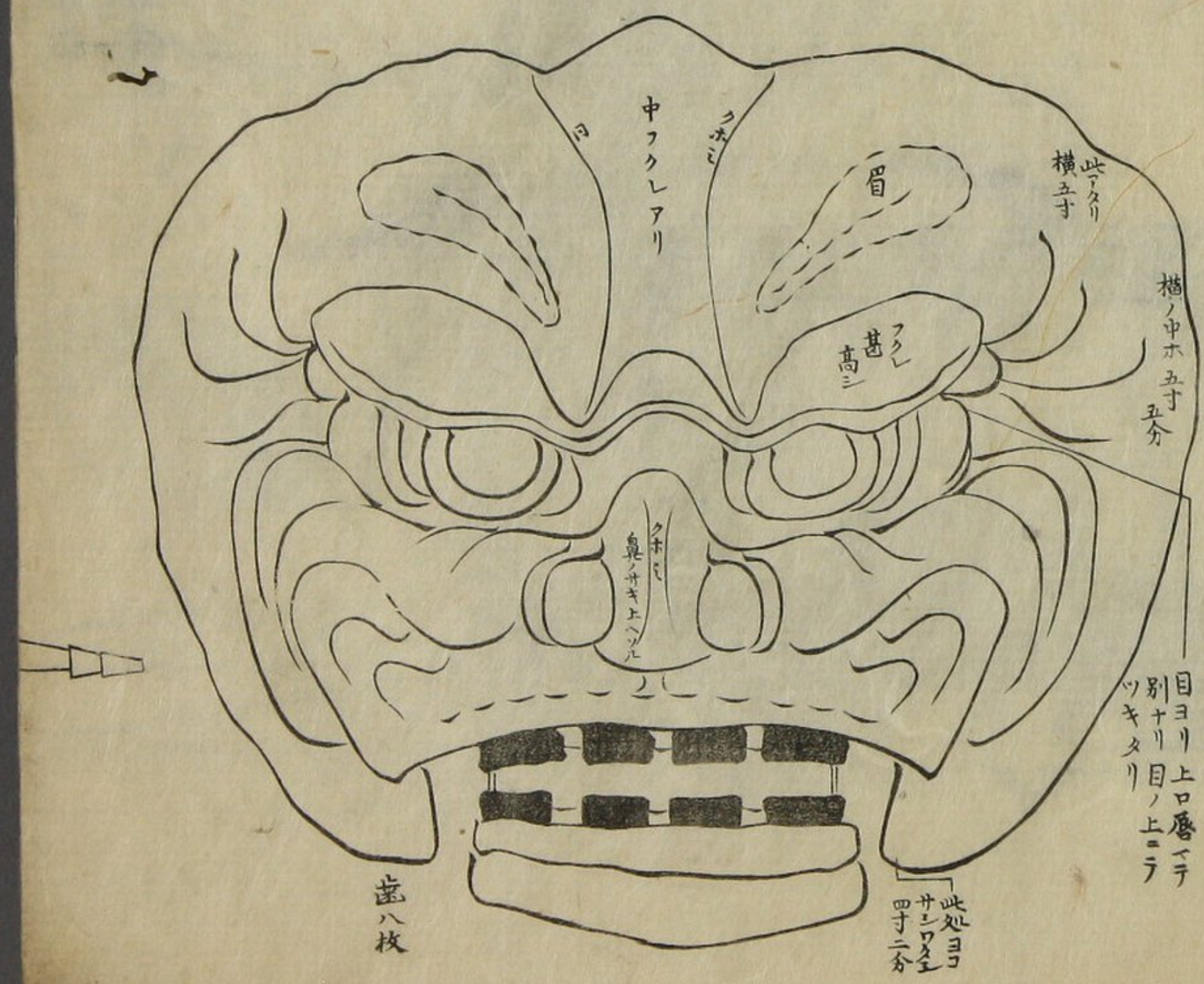
杖

空也上人



南都藥師寺什物  
還城樂面

十訓抄云  
南都ニ舞ノ師アサナ和  
博士晴遠ト云者アリ  
重代還城樂ヲ舞テ  
君ニツカフニリケルニ  
此晴遠カ先祖ノ舞人ノ  
家ニ還城樂ノ面アミタ  
アリケリフリオモテトナツ  
ケテ重代此ヲ傳タリケルカ  
今ハ南都ノ宝物ニテ有  
トキコユ云云  
コニ南都ノ宝物ニト  
アルハ此藥師寺ノコトナ  
ハシ



此アガリ  
横五寸  
楯ノ中ホ五寸  
五分

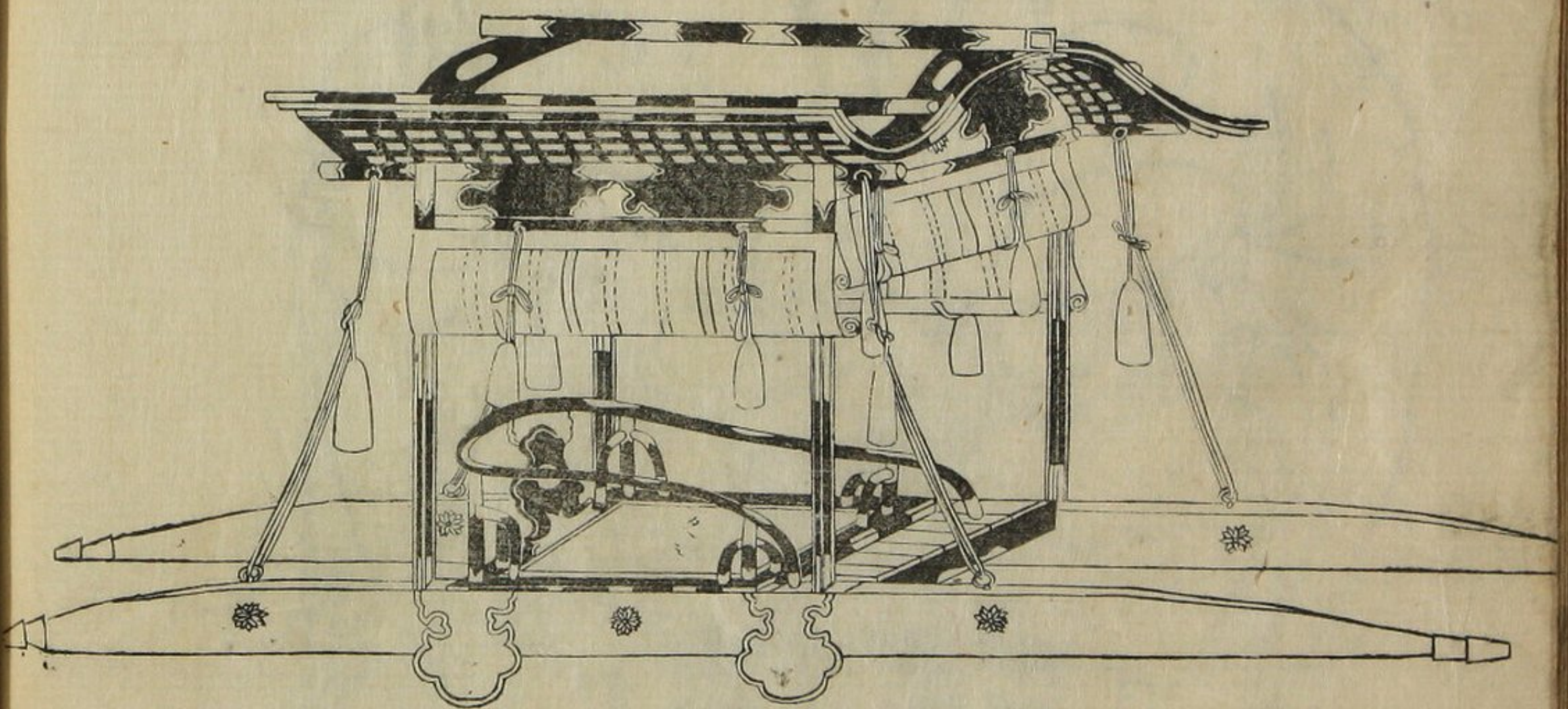
目ヨリ上口唇ニテ  
別ナリ目ノ上ニテ  
ツキタリ

此処ヨリ  
サニ口全  
四寸二分

齒八枚

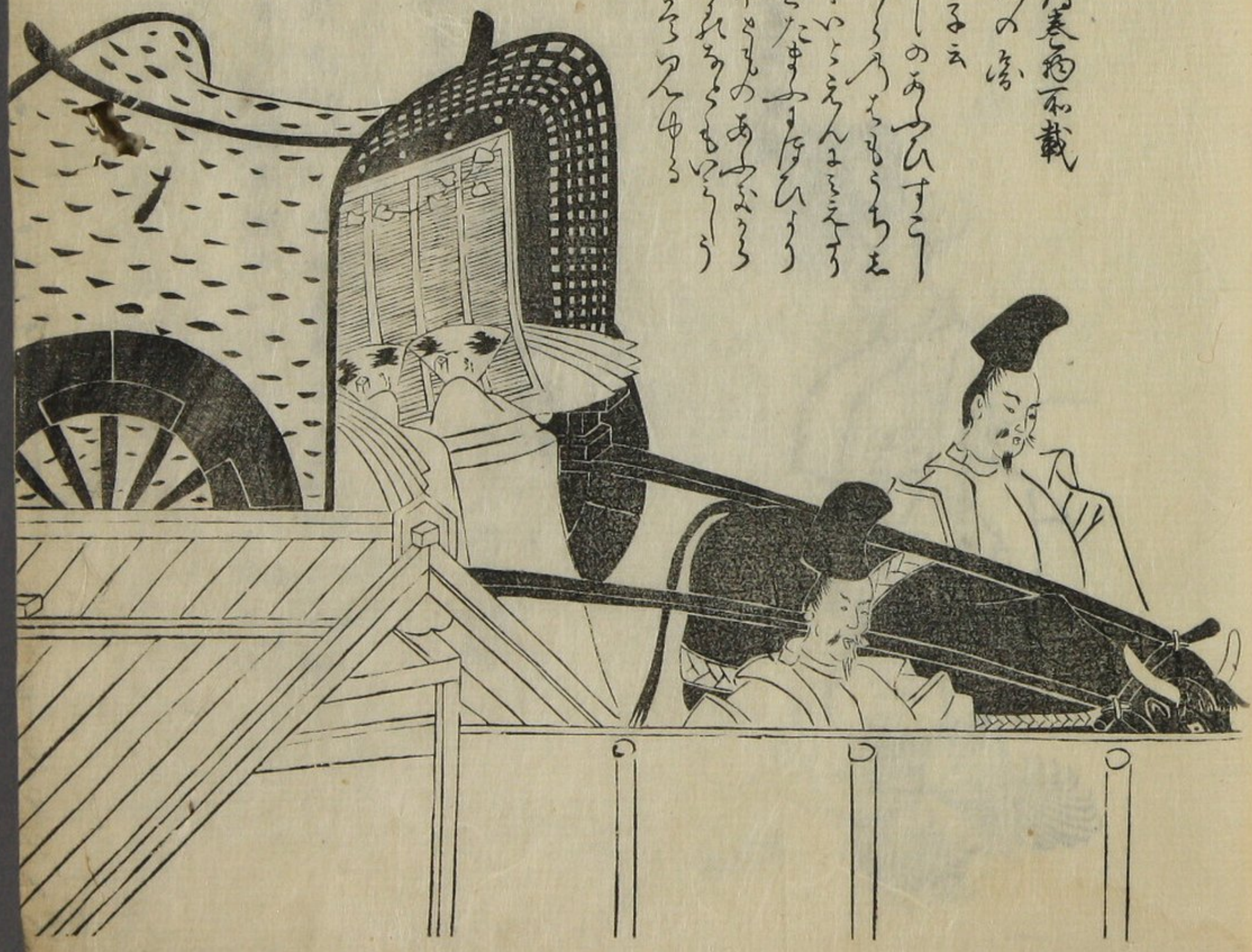
南禅寺正藏  
龜山帝御腰輿

柱長三丈一尺七分  
 前二尺七寸七分  
 横三尺九寸  
 棒長一丈一尺一寸  
 曲錄高一尺一寸八分  
 疊巾一尺一寸八分  
 疊巾堅二尺四寸



文乳加茂糸繪巻物不載

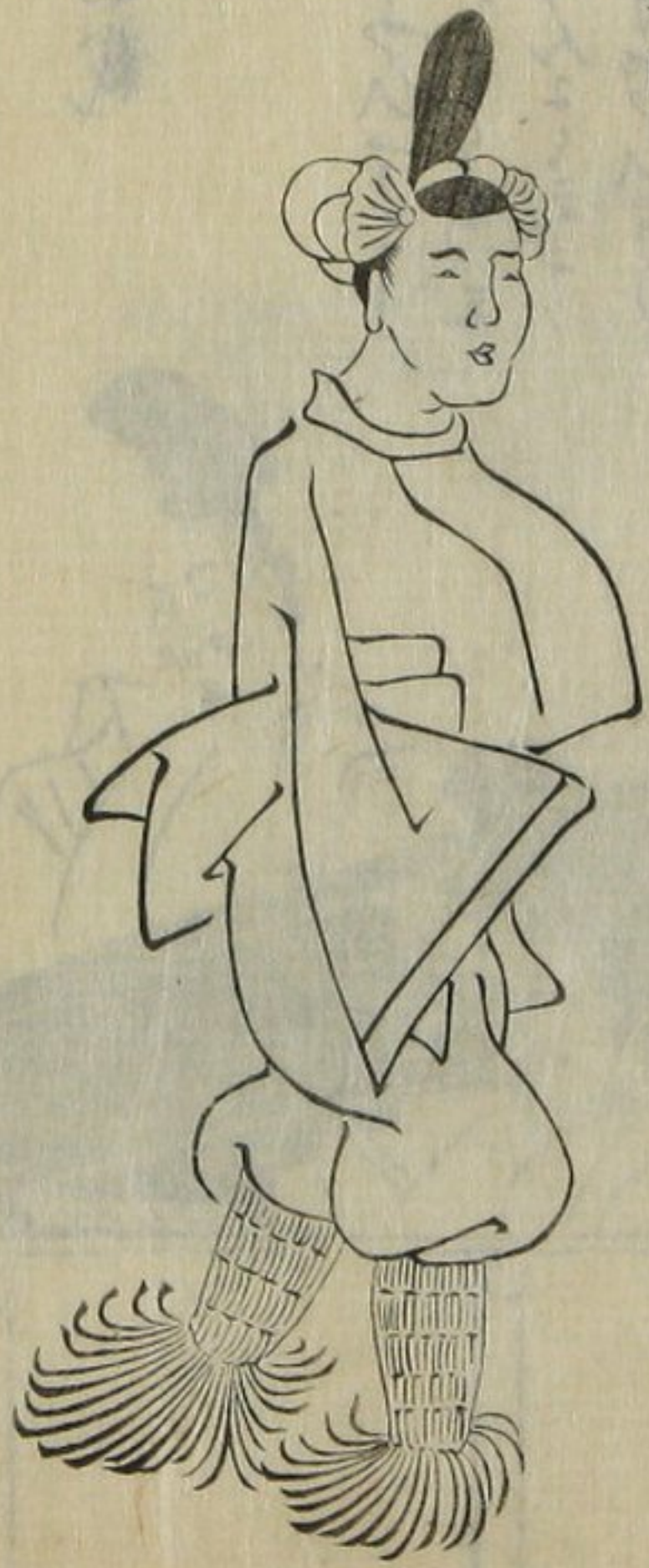
清女納言梳草子云  
 清はうしの所しのみひす  
 ありやうりやうりやうりやうり  
 清車れかきささなますすひひ  
 衣あそららひあれそららら  
 ちりりりりりりりりりりりり  
 雅亮装束車  
 車のきぬとて  
 こころけけけけ  
 ちりりりりりりりりりりりり



いらしむ

和名鉢云唐式云諸府衛士人別行纏一具  
 本朝式云脛巾俗云波新抄本草云茵  
 纏故附出行  
 御襖行幸服色部類記云  
 康治元十廿六宇梶記馬副十具之内裳脛巾  
 結緒手振十二具之内裳脛巾為結緒  
 草  
 纏音直  
 連反和名  
 以知比今俗

文永加茂祭繪卷所載圖



文永加茂祭繪卷物所載  
放免法



福ら本以辨

法云  
 建治弘安此二祭の日放免のつらふのふちやうある緋の布は四五をさして  
 うまを法よりく尾髪まはさうみとして今ある記をる水干ふつを  
 歌のあふるむいひくわさうし事みおとす人なりふと具ありく志す  
 ころし侍りし母の道志もあふかりさうさふあちんはあ介  
 ありあふる川のさ記とのと母なく川さうさ右袖手へよとせて  
 み法はハ不孝さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 云

職人盡歌合  
 土江經隆筆  
 五盡 左 又 二

今のよのあけ...  
 福ま...  
 うら...  
 今...  
 福...  
 うら...

今...  
 福...  
 うら...



半部車圖

東鑑云文治六年十二月九日  
 前右大将家駕半部車全容院給  
 件車自院所調下也云云

